

II 人口動態統計

<埼玉県の人口動態概況（確定数）について>

これは、厚生労働省が平成27年1月から平成27年12月までの人口動態調査票を集計したものを年計として公表するものです。

【利用上の注意】

平成27年は国勢調査年のため、諸率の算出に用いた人口が、以下のとおり通常の年と異なります。

	国勢調査年		通常の年	
	確定数	概数	確定数	概数
全国	「国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口」(日本人人口) (総務省統計局)注1	「人口推計(各年10月1日現在)」 (日本人人口) (総務省統計局)注2	「人口推計(各年10月1日現在)」 (日本人人口) (総務省統計局)	「人口推計(各年10月1日現在)」 (日本人人口) (総務省統計局)
年齢階級別	同上	同上	同上	同上
埼玉県	「国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口」(日本人人口) (総務省統計局)注1	「人口推計(各年10月1日現在)」 (日本人人口) (総務省統計局)注2	「人口推計(各年10月1日現在)」 (日本人人口) (総務省統計局)	「人口推計(各年10月1日現在)」 (日本人人口) (総務省統計局)
年齢階級別	同上	同上(ただし、総人口)	同上(ただし、総人口)	同上(ただし、総人口)
さいたま市・さいたま市保健所	「国勢調査 年齢・国籍不詳をあん分した人口」(日本人人口) (総務省統計局)注3	「国勢調査人口速報集計結果」 (総人口) (総務省統計局)	「各年10月1日現在推計人口」 (総人口) (さいたま市)	「各年10月1日現在推計人口」 (総人口) (さいたま市)
年齢階級別	同上	—	「各年1月1日現在埼玉県町(丁)字別人口」(総人口) (県総務部統計課)	—
市区町村(さいたま市を除く)	「国勢調査人口等基本集計」 (日本人人口) (総務省統計局)注4	「各年10月1日現在推計人口」 (総人口) (県総務部統計課)	「各年10月1日現在推計人口」 (総人口) (県総務部統計課)	「各年10月1日現在推計人口」 (総人口) (県総務部統計課)
年齢階級別	同上	—	「各年1月1日現在埼玉県町(丁)字別人口」(総人口) (県総務部統計課)	—

注1：平成26年以前は、「国勢調査による基準人口」と表記していた。

注2：平成22年以前は、総務省統計局の資料に基づき、厚生労働省で推計した「人口推計(各年10月1日現在)」(日本人人口)を用いた。

注3：平成22年以前は、総務省統計局の資料に基づき、厚生労働省で推計した「国勢調査人口」(日本人人口)を用いた。

注4：平成12年以前は、総人口を用いた。

1 人口動態の概況（平成27年1月～12月）

（1）出生数 [増加]

出生数は56,077人で、前年と比べ312人増加し、出生率は人口千人に対し7.8で、前年と同率であった。

（2）死亡数 [増加]

死亡数は62,565人で、前年と比べ1,296人増加し、死亡率は人口千人に対し8.7で、前年と比べ0.1ポイント上昇した。

（3）乳児死亡数 [減少]

乳児死亡数は111人で、前年と比べ7人減少し、乳児死亡率は出生千人に対し2.0で、前年と比べ0.1ポイント低下した。

（4）自然増減数 [減少]

自然増減数は△6,488人で、前年と比べ984人減少し、自然増減率は人口千人に対し△0.9で、前年と比べ0.1ポイント低下した。

（5）死産数 [減少]

死産数は1,350胎で、前年と比べ32胎減少し、死産率は出産（出生＋死産）千人（胎）に対し23.5で、前年と比べ0.7ポイント低下した。

（6）周産期死亡数 [減少]

周産期死亡数は208人（胎）で、前年と比べ13人（胎）減少し、周産期死亡率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千人（胎）に対し3.7で、前年と比べ0.3ポイント低下した。

（7）婚姻件数 [減少]

婚姻件数は34,757組で、前年と比べ461組減少し、婚姻率は人口千人に対し4.9で、前年と同率であった。

（8）離婚件数 [増加]

離婚件数は12,667組で、前年と比べ183組増加し、離婚率は人口千人に対し1.77で、前年と比べ0.02ポイント増加した。

表－1 人口動態の概況（対前年比較）

埼玉県

	実数 (人、胎、組)			率			平均発生間隔	
	平成27年	平成26年	対前年増減	平成27年	平成26年	対前年増減	平成27年	平成26年
出生	56 077	55 765	312	7.8	7.8	-	時 分 秒 9 22	時 分 秒 9 26
死亡	62 565	61 269	1 296	8.7	8.6	0.1	8 24	8 35
乳児死亡	111	118	△ 7	2.0	2.1	△ 0.1	78 55 8	74 14 14
新生児死亡	48	54	△ 6	0.9	1.0	△ 0.1	182 30 0	162 13 20
自然増減	△ 6 488	△ 5 504	△ 984	△ 0.9	△ 0.8	△ 0.1	…	…
死産	1 350	1 382	△ 32	23.5	24.2	△ 0.7	6 29 20	6 20 19
自然死産	670	665	5	11.7	11.6	0.1	13 4 29	13 10 23
人工死産	680	717	△ 37	11.8	12.5	△ 0.7	12 52 56	12 13 3
周産期死亡	208	221	△ 13	3.7	4.0	△ 0.3	42 6 55	39 38 17
妊娠満22週以後の死産	175	181	△ 6	3.1	3.2	△ 0.1	50 3 26	48 23 52
早期新生児死亡	33	40	△ 7	0.6	0.7	△ 0.1	265 27 16	219 0 0
婚姻	34 757	35 218	△ 461	4.9	4.9	-	15 7	14 55
離婚	12 667	12 484	183	1.77	1.75	0.02	41 30	42 6

注：出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚は人口千対、乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡・妊娠満22歳以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対である。

2 各 論

(1) 出 生

ア 出生数及び出生率

平成27年の出生数は56,077人で、前年の55,765人より312人増加した。

出生数を年次推移で見ると、昭和48年の106,008人をピークに平成2年まで減少し続け、その後増加と減少を繰り返していた。近年では、平成25年に平成18年以降7年ぶりに増加し、平成26年は減少となったものの、平成27年は再び増加した。(表-2)

出生率は人口千人に対し7.8で、前年と同率であった。全国は前年と同率の8.0であった。

出生率を年次推移で見ると、第2次ベビーブームの昭和46年の24.0以降低下を続け、平成元年に10.1となり、その後上昇と低下を繰り返しながら10.0前後で推移していた。平成19年から減少傾向にあり、平成25年における出生率上昇は、出生数同様7年ぶりのことであったが、平成26年は低下し、平成27年も上昇することなく同率であった。

出生率を全国と比較してみると、本県の出生率は平成3年以降、わずかながら全国を上回る状態であった。しかし、平成20年に全国を下回り、平成21年には同率となったものの、平成22年以降再び下回っている。(図-1)

なお、昭和41年にみられる出生率の低下は、丙午(ひのえうま)によるものである。

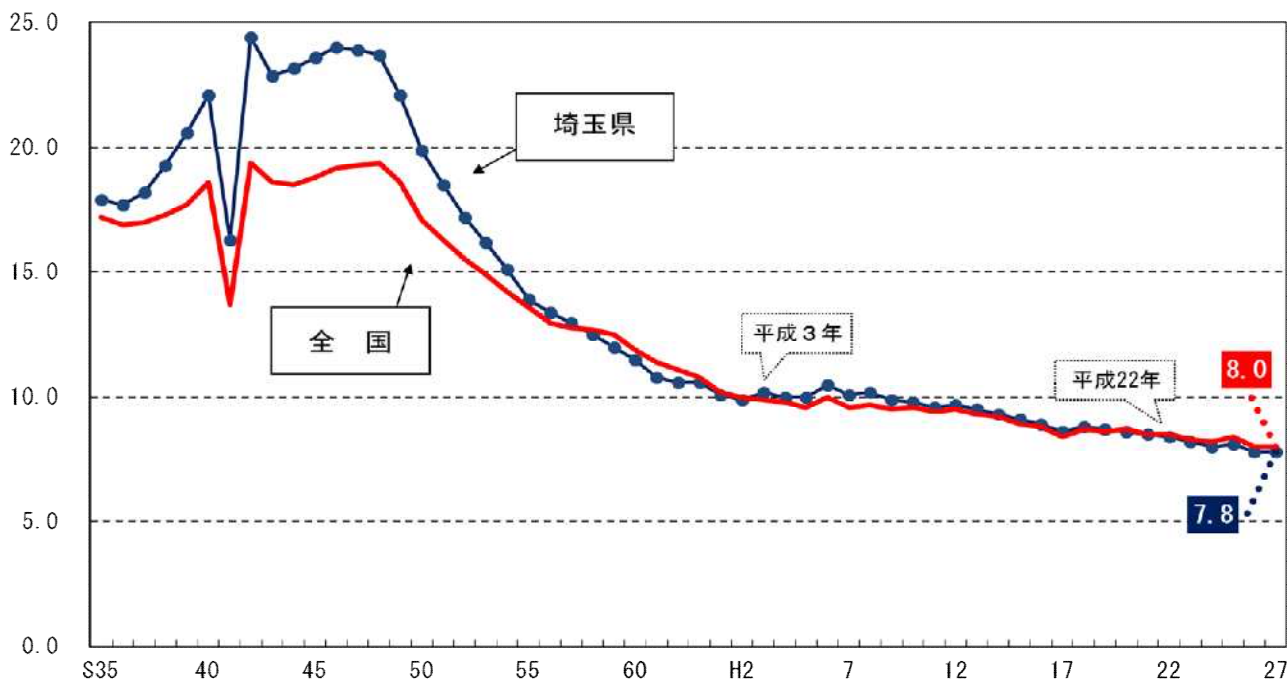
表-2 出生数及び出生率の年次推移

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	26	27	
数	埼玉県	43 421	66 585	91 113	96 033	75 090	67 260	63 299	67 750	66 376	59 731	59 437	57 470	55 765	56 077
	全国	1 606 041	1 823 697	1 934 239	1 901 440	1 576 889	1 431 577	1 221 585	1 187 064	1 190 547	1 062 530	1 071 304	1 029 816	1 003 539	1 005 677
率	埼玉県	17.9	22.1	23.6	19.9	13.9	11.5	9.9	10.1	9.7	8.6	8.4	8.1	7.8	7.8
	全国	17.2	18.6	18.8	17.1	13.6	11.9	10.0	9.6	9.5	8.4	8.5	8.2	8.0	8.0

注：率は人口千対である。

図-1 出生率の年次推移(埼玉県・全国)

出生率(人口千対)



イ 都道府県別にみた出生率

都道府県別にみると、本県は、昭和49年から昭和52年までは、高率順で沖縄県に次いで第2位であった。しかし、昭和53年以降順位を落とし昭和61年には41位まで下がった。その後回復し、平成7年には4位となった。近年は、平成24年に26位、平成25年以降は23位と、横ばいの状況が続いている。(表-3)

表-3 都道府県別にみた出生率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高率順	全 国	11.9		全 国	10.0		全 国	9.6		全 国	9.5		全 国	8.4	
	沖 縄	17.6	1	沖 縄	14.0	1	沖 縄	13.2	1	沖 縄	12.8	1	沖 縄	11.9	1
	福 島	13.3	2	滋 賀	11.2	2	愛 知	10.6	2	愛 知	10.8	2	滋 賀	9.5	2
	佐 賀	13.1	3	佐 賀	10.9	3	滋 賀	10.5	3	滋 賀	10.6	3	愛 知	9.4	3
	宮 城	12.9	4	福 島	10.8	4	埼 玉	10.1	4	大 阪	10.2	4	福 井	8.8	4
	宮 崎	12.9	5	愛 知	10.7	5	山 梨	10.1	5	佐 賀	10.0	5	大 阪	8.8	5
	鹿 児 島	12.7	6	長 崎	10.6	6	福 井	10.1	6	兵 庫	10.0	6	神 奈 川	8.8	6
	滋 賀	12.7	7	福 井	10.6	7	福 島	10.0	7	神 奈 川	9.9	7	栃 木	8.7	7
	長 崎	12.7	8	鹿 児 島	10.5	8	大 阪	10.0	8	岡 山	9.8	8	佐 賀	8.7	8
	栃 木	12.7	9	鳥 取	10.4	9	宮 崎	10.0	9	福 井	9.8	9	広 島	8.7	9
熊 本	12.6	10	宮 城	10.4	10	神 奈 川	9.9	10	石 川	9.8	10	福 岡	8.7	10	
	埼 玉	11.5	34	埼 玉	9.9	29				埼 玉	9.7	15	埼 玉	8.6	18
低率順	富 山	10.7	1	高 知	8.7	1	秋 田	8.2	1	秋 田	7.6	1	秋 田	6.7	1
	東 京	10.7	2	山 口	8.8	2	東 京	8.4	2	北 海 道	8.3	2	徳 島	7.3	2
	秋 田	10.9	3	東 京	8.9	3	高 知	8.5	3	高 知	8.4	3	青 森	7.3	3
	高 知	11.1	4	秋 田	9.0	4	山 口	8.6	4	東 京	8.5	4	北 海 道	7.4	4
	京 都	11.1	5	富 山	9.0	5	島 根	8.8	5	島 根	8.6	5	高 知	7.5	5
高率順	全 国	8.5		全 国	8.2		全 国	8.2		全 国	8.0		全 国	8.0	
	沖 縄	12.3	1	沖 縄	12.2	1	沖 縄	12.2	1	沖 縄	11.6	1	沖 縄	11.9	1
	愛 知	9.6	2	滋 賀	9.5	2	滋 賀	9.3	2	滋 賀	9.1	2	滋 賀	9.1	2
	滋 賀	9.6	3	愛 知	9.3	3	愛 知	9.2	3	福 岡	9.0	3	愛 知	9.0	3
	福 岡	9.3	4	福 岡	9.1	4	福 岡	9.1	4	愛 知	8.9	4	福 岡	9.0	4
	広 島	9.0	5	熊 本	8.9	5	熊 本	8.9	5	熊 本	8.7	5	熊 本	8.8	5
	宮 崎	9.0	6	佐 賀	8.9	6	宮 崎	8.8	6	佐 賀	8.6	6	東 京	8.6	6
	佐 賀	9.0	7	広 島	8.8	7	広 島	8.8	7	宮 崎	8.6	7	鹿 児 島	8.6	7
	熊 本	9.0	8	鹿 児 島	8.8	8	鹿 児 島	8.7	8	鹿 児 島	8.6	8	佐 賀	8.5	8
	鹿 児 島	8.9	9	宮 崎	8.8	9	佐 賀	8.7	9	広 島	8.5	9	広 島	8.4	9
神 奈 川	8.8	10	福 井	8.5	10	東 京	8.5	10	東 京	8.5	10	宮 崎	8.4	10	
	埼 玉	8.4	22	埼 玉	8.0	26	埼 玉	8.1	23	埼 玉	7.8	23	埼 玉	7.8	23
低率順	秋 田	6.2	1	秋 田	6.2	1	秋 田	5.9	1	秋 田	5.8	1	秋 田	5.7	1
	青 森	7.1	2	青 森	6.8	2	青 森	6.8	2	青 森	6.7	2	青 森	6.6	2
	高 知	7.2	3	高 知	7.0	3	北 海 道	7.1	3	高 知	6.8	3	北 海 道	6.8	3
	北 海 道	7.3	4	福 島	7.0	4	高 知	7.1	4	岩 手	6.9	4	岩 手	6.9	4
	岩 手	7.4	5	北 海 道	7.1	5	岩 手	7.2	5	北 海 道	6.9	5	高 知	7.0	5

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮。

ウ 市町村別にみた出生率

市町村別にみると、高率順では、戸田市（11.5）、和光市（10.9）、朝霞市（10.3）の順である。

また、低率順では、東秩父村（3.1）、鳩山町（3.3）、小鹿野町（3.8）の順である。（表－4、図－2）

表－4 市町村別にみた出生率（高率順）

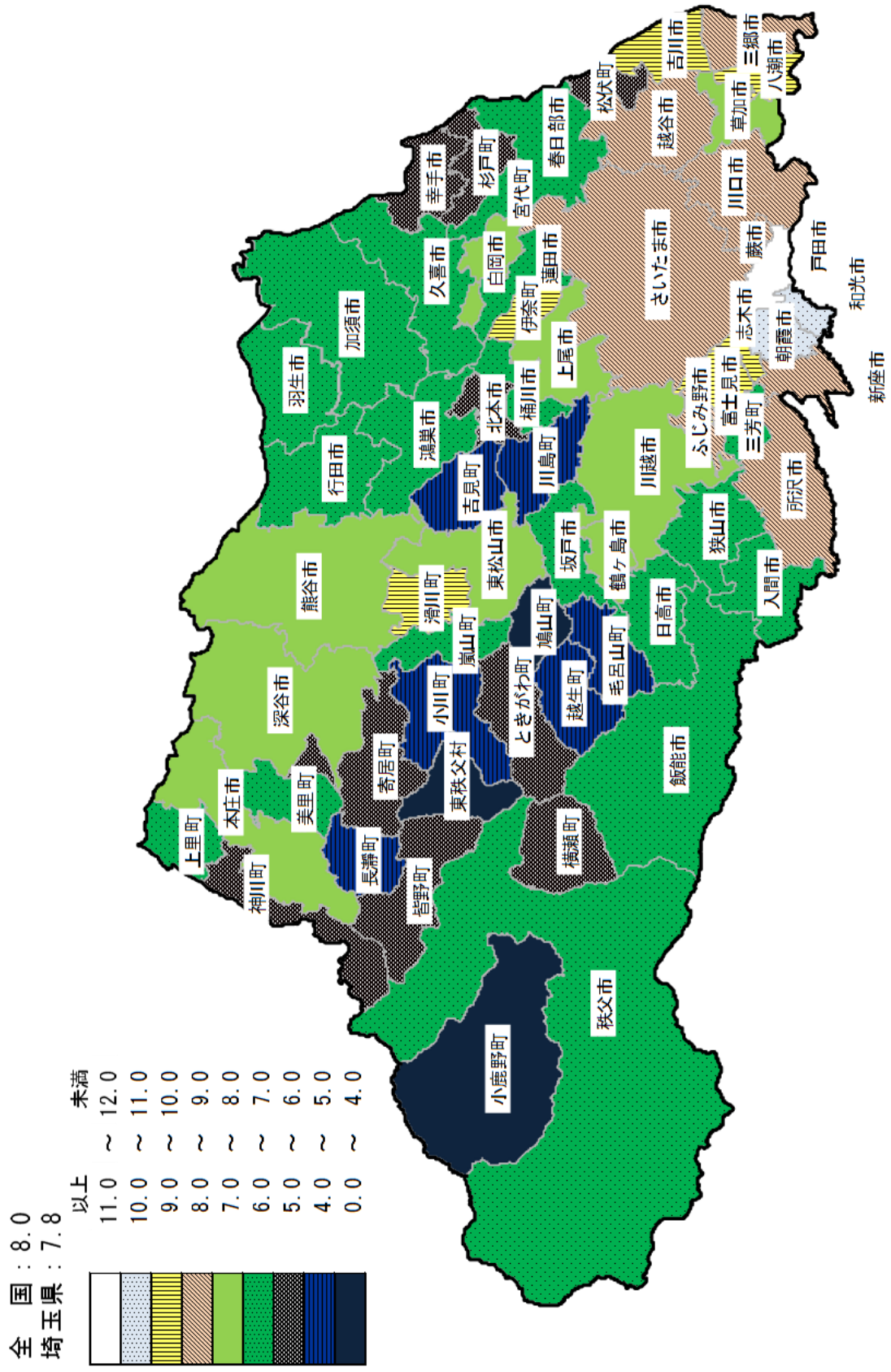
埼玉県

順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率
1	戸田市	11.5	22	白岡市	7.5	43	日高市	6.3
2	和光市	10.9	23	熊谷市	7.5	44	三芳町	6.2
3	朝霞市	10.3	24	鶴ヶ島市	7.3	45	加須市	6.0
4	滑川町	9.9	25	深谷市	7.2	46	北本市	5.8
5	吉川市	9.5	26	本庄市	7.1	47	幸手市	5.7
6	八潮市	9.5	27	入間市	6.9	48	横瀬町	5.7
7	富士見市	9.3	28	秩父市	6.9	49	寄居町	5.7
8	志木市	9.2	29	坂戸市	6.9	50	神川町	5.6
9	伊奈町	9.0	30	上里町	6.8	51	皆野町	5.2
10	川口市	8.9	31	蓮田市	6.8	52	杉戸町	5.2
11	ふじみ野市	8.8	32	鴻巣市	6.7	53	松伏町	5.1
12	三郷市	8.8	33	春日部市	6.7	54	ときがわ町	5.0
13	さいたま市	8.6	34	美里町	6.6	55	毛呂山町	4.9
14	蕨市	8.5	35	宮代町	6.6	56	小川町	4.9
15	新座市	8.3	36	行田市	6.6	57	川島町	4.9
16	越谷市	8.2	37	桶川市	6.5	58	長瀬町	4.7
17	所沢市	8.1	38	嵐山町	6.5	59	吉見町	4.1
18	川越市	7.9	39	久喜市	6.4	60	越生町	4.0
19	東松山市	7.7	40	羽生市	6.4	61	小鹿野町	3.8
20	上尾市	7.7	41	狭山市	6.4	62	鳩山町	3.3
21	草加市	7.7	42	飯能市	6.3	63	東秩父村	3.1

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮。

図一 2 出生率（人口千対）—市町村別状況—



エ 出生順位別にみた出生の動向

出生順位別に出生数の構成割合の年次推移をみると、第1子の割合は昭和60年（42.0%）から平成6年（49.8%）まで増加を続けていた。しかし、平成7年以降は増減をくり返し、平成15年からは減少傾向にあった。近年は48.0%前後で推移しており、平成27年は48.3%で、前年の47.9%を0.4ポイント上回った。

また、第2子の割合は昭和55年（42.7%）以降減少を続けていたが、平成6年から平成8年にかけてやや増加した。その後は再び増減をくり返し、ここ数年は37.0%前後で推移している。平成27年は37.2%であった。

第3子以降の割合は、昭和35年には26.8%と全体の3割近くを占めていたものの、平成4年以降は一貫して15.0%を下回っている。平成25年から平成27年は14.5%と同率が続いた。（図 - 3、表 - 5）

図 - 3 出生順位別にみた出生割合の年次推移(埼玉県)

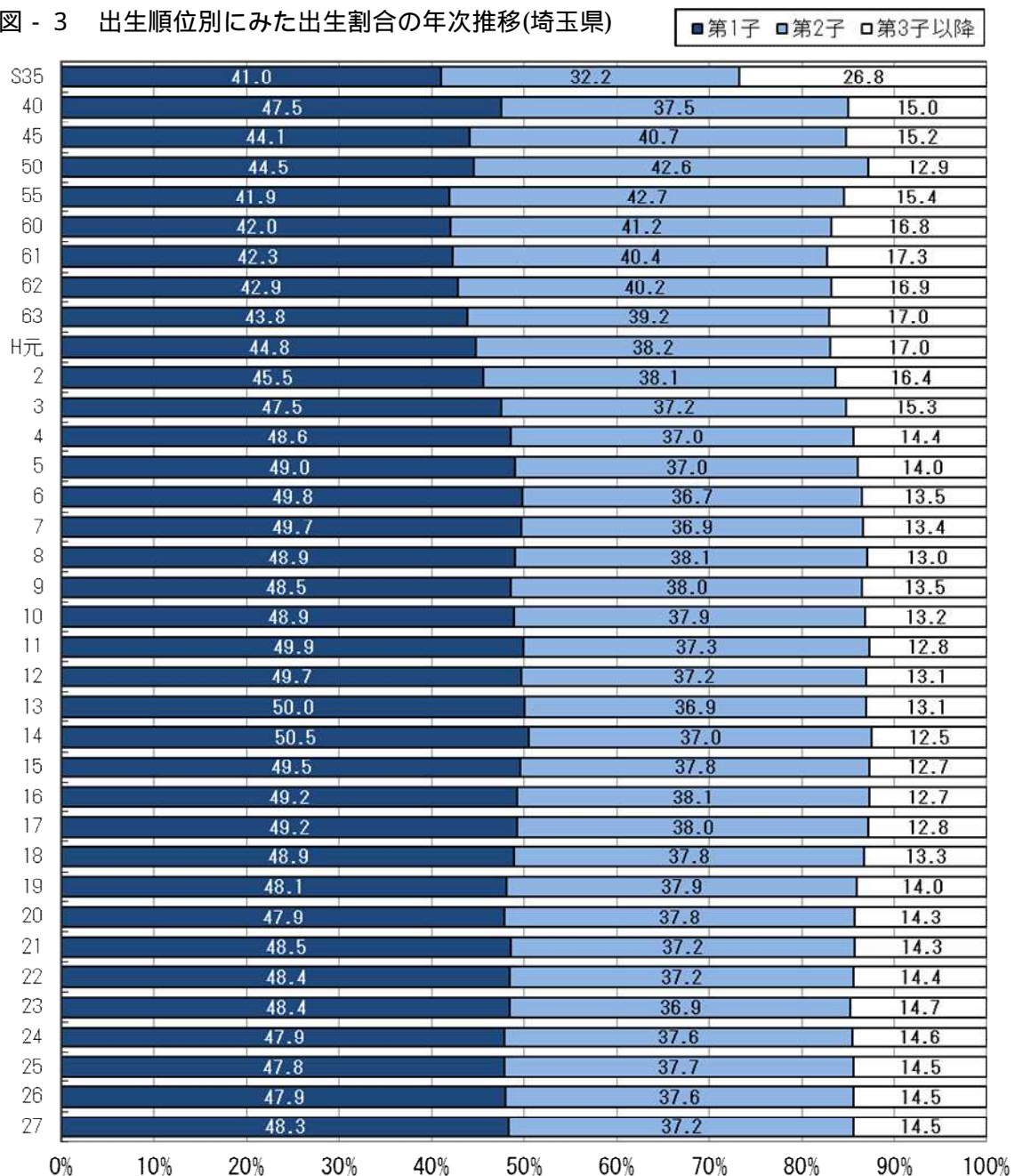


表 - 5 出生順位別にみた出生数及び構成割合の年次推移

埼玉県

	出生数						構成割合					
	総数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子以降	総数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子以降
S 35	43 421	17 794	13 987	6 817	2 669	2 154	100.0	41.0	32.2	15.7	6.1	5.0
40	66 585	31 602	24 975	7 438	1 699	871	100.0	47.5	37.5	11.2	2.5	1.3
45	91 113	40 199	37 067	11 411	1 768	668	100.0	44.1	40.7	12.5	2.0	0.7
50	96 033	42 762	40 901	10 521	1 376	473	100.0	44.5	42.6	11.0	1.4	0.5
55	75 090	31 468	32 049	10 060	1 172	341	100.0	41.9	42.7	13.4	1.6	0.4
60	67 260	28 252	27 684	9 749	1 271	304	100.0	42.0	41.2	14.5	1.9	0.4
61	64 392	27 236	26 020	9 533	1 258	345	100.0	42.3	40.4	14.8	2.0	0.5
62	64 496	27 647	25 956	9 347	1 201	345	100.0	42.9	40.2	14.5	1.9	0.5
63	65 396	28 638	25 612	9 512	1 280	354	100.0	43.8	39.2	14.5	2.0	0.5
H 元	63 419	28 431	24 247	9 159	1 269	313	100.0	44.8	38.2	14.5	2.0	0.5
2	63 299	28 806	24 120	8 852	1 234	287	100.0	45.5	38.1	14.0	1.9	0.5
3	65 928	31 353	24 513	8 453	1 313	296	100.0	47.5	37.2	12.8	2.0	0.5
4	65 219	31 674	24 141	7 928	1 154	322	100.0	48.6	37.0	12.1	1.8	0.5
5	66 268	32 499	24 506	7 828	1 137	298	100.0	49.0	37.0	11.8	1.7	0.5
6	69 776	34 714	25 636	7 960	1 169	297	100.0	49.8	36.7	11.4	1.7	0.4
7	67 750	33 651	24 985	7 619	1 229	266	100.0	49.7	36.9	11.2	1.8	0.4
8	68 695	33 612	26 163	7 400	1 229	291	100.0	48.9	38.1	10.8	1.8	0.4
9	67 585	32 803	25 663	7 673	1 146	300	100.0	48.5	38.0	11.4	1.7	0.4
10	67 144	32 796	25 458	7 421	1 145	324	100.0	48.9	37.9	11.0	1.7	0.5
11	65 711	32 800	24 531	7 028	1 050	302	100.0	49.9	37.3	10.7	1.6	0.5
12	66 376	32 976	24 707	7 147	1 240	306	100.0	49.7	37.2	10.8	1.9	0.4
13	65 417	32 698	24 169	7 067	1 159	324	100.0	50.0	36.9	10.8	1.8	0.5
14	64 762	32 721	23 922	6 690	1 089	340	100.0	50.5	37.0	10.3	1.7	0.5
15	63 224	31 303	23 896	6 633	1 083	309	100.0	49.5	37.8	10.5	1.7	0.5
16	61 946	30 465	23 604	6 493	1 095	289	100.0	49.2	38.1	10.5	1.8	0.4
17	59 731	29 389	22 669	6 318	1 012	343	100.0	49.2	38.0	10.6	1.7	0.5
18	61 201	29 931	23 133	6 650	1 156	331	100.0	48.9	37.8	10.9	1.9	0.5
19	60 818	29 232	23 050	6 935	1 222	379	100.0	48.1	37.9	11.4	2.0	0.6
20	60 520	28 959	22 902	7 077	1 229	353	100.0	47.9	37.8	11.7	2.0	0.6
21	59 725	28 989	22 213	6 944	1 192	387	100.0	48.5	37.2	11.6	2.0	0.6
22	59 437	28 748	22 138	6 886	1 289	376	100.0	48.4	37.2	11.6	2.2	0.6
23	58 059	28 081	21 419	6 902	1 255	402	100.0	48.4	36.9	11.9	2.2	0.6
24	56 943	27 253	21 385	6 710	1 230	365	100.0	47.9	37.6	11.8	2.2	0.6
25	57 470	27 463	21 694	6 699	1 221	393	100.0	47.8	37.7	11.7	2.1	0.7
26	55 765	26 732	20 980	6 443	1 229	381	100.0	47.9	37.6	11.6	2.2	0.7
27	56 077	27 071	20 895	6 570	1 156	385	100.0	48.3	37.2	11.7	2.1	0.7

注：第5子以降には不詳を含む。

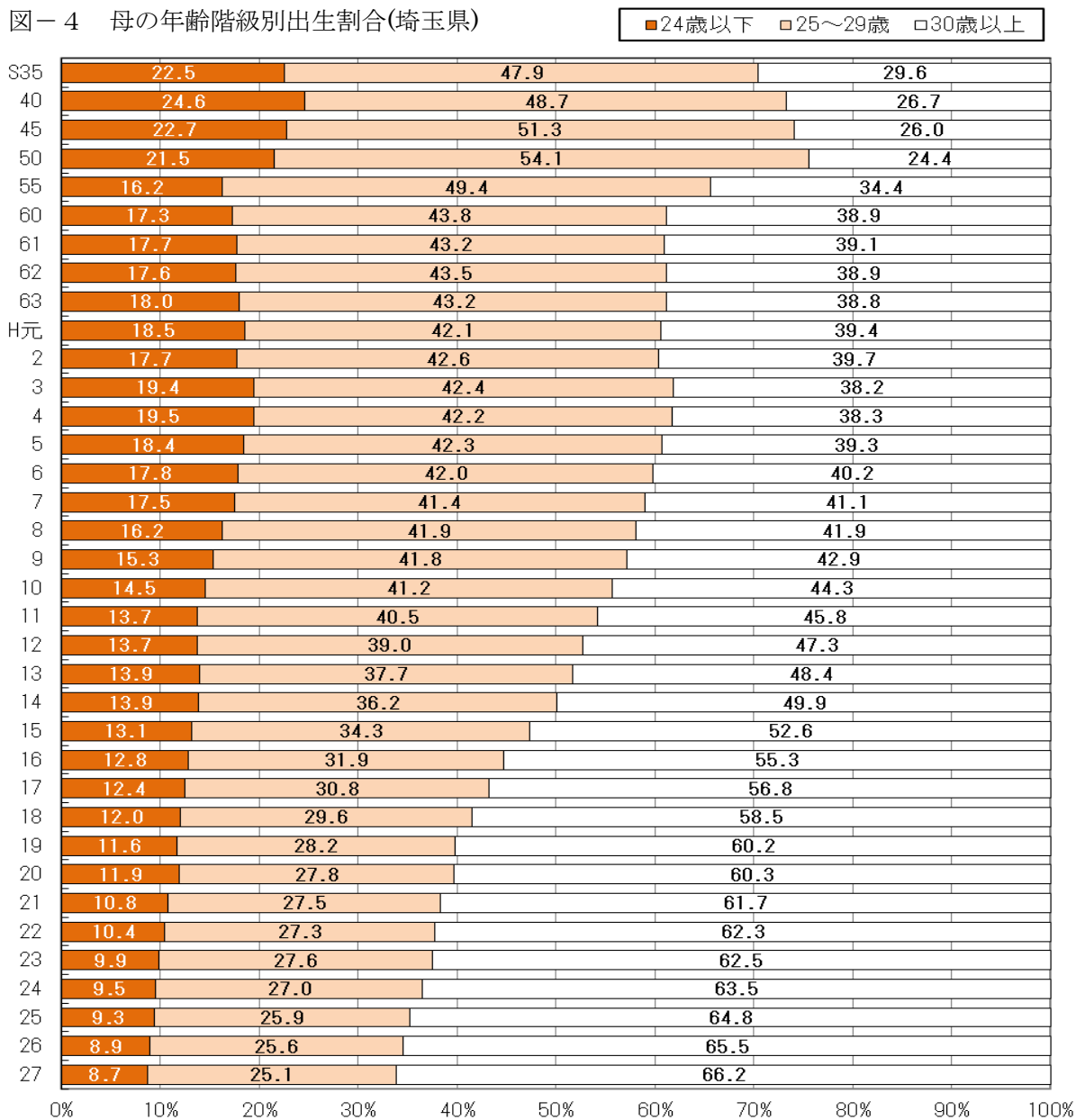
オ 母の年齢階級別にみた出生の動向

母の年齢階級別に出生数の構成割合をみると、25～29歳の母からの出生は昭和51年の57.0%をピークとして減少傾向にあり、平成27年は25.1%だった。全体に占める割合はピーク時の2分の1を下回っている。

また、24歳以下の割合も平成5年以降減少傾向にある。平成27年は8.7%となり、過去最低となった。

一方、30歳以上の割合は平成4年以降一貫して増加が続いている。平成19年に初めて出生数全体の6割を超え、平成27年は66.2%と、全体の3分の2近くとなった。

(図－4)



(2) 死亡

ア 死亡数及び死亡率

死亡数は62,565人で、前年の61,269人より1,296人増加した。

死亡率は人口千人に対し8.7で、前年の8.6を0.1ポイント上回った。全国（10.3）より1.6ポイント下回っている。

死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年5.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。（表 - 6、図 - 5）

表 - 6 死亡数及び死亡率の年次推移

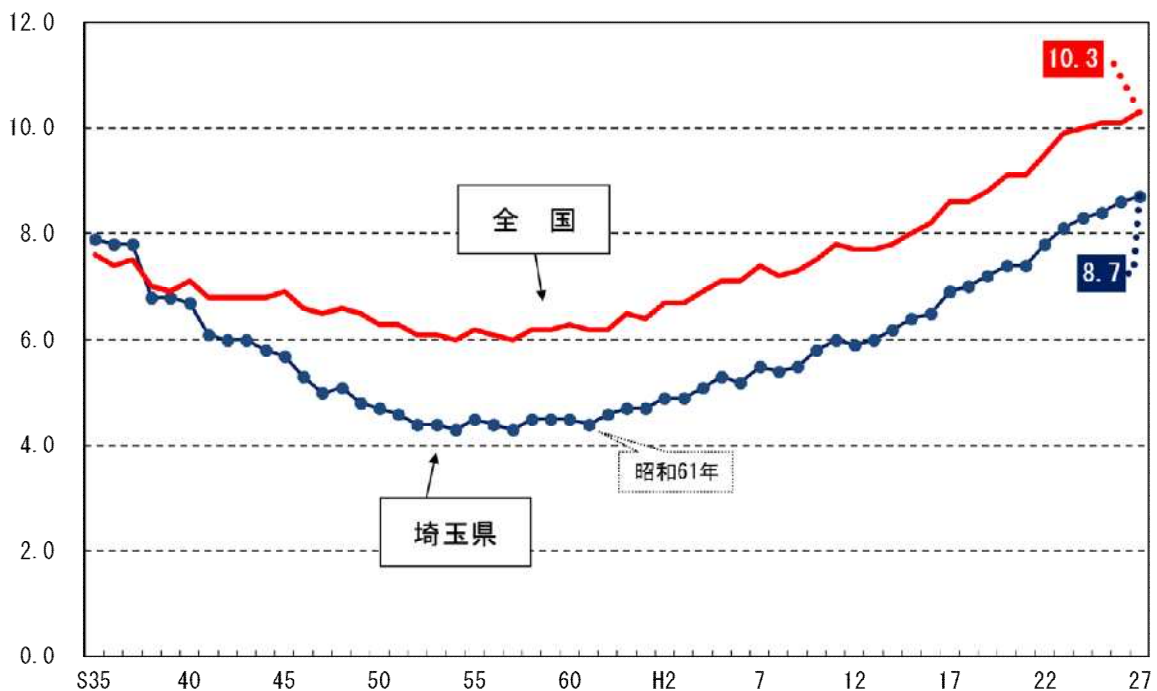
		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222
	全 国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9
	全 国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7

		7	12	17	22	25	26	27
数	埼玉県	36 799	40 486	48 095	55 487	60 264	61 269	62 565
	全 国	922 139	961 653	1 083 796	1 197 012	1 268 432	1 273 004	1 290 444
率	埼玉県	5.5	5.9	6.9	7.8	8.4	8.6	8.7
	全 国	7.4	7.7	8.6	9.5	10.1	10.1	10.3

注：率は人口千対である。

図 - 5 死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口千対）



イ 都道府県別にみた死亡率

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和 63 年以降平成 13 年まで低率順で第 1 位、平成 14、15 年は沖縄県に次いで第 2 位、平成 16 年以降は沖縄県及び神奈川県に次いで第 3 位となっていた。しかし平成 26 年に東京都が第 3 位、愛知県が第 4 位となり、埼玉県は第 5 位となった。平成 27 年は愛知県を 0.1 ポイント上回り、第 4 位であった。(表-7)

表-7 都道府県別にみた死亡率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高 率 順	全 国	6.3		全 国	6.7		全 国	7.4		全 国	7.7		全 国	8.6	
	高 知	8.7	1	高 知	9.3	1	島 根	10.0	1	高 知	10.2	1	島 根	11.6	1
	鹿 児 島	8.5	2	島 根	9.1	2	高 知	9.9	2	島 根	10.2	2	高 知	11.5	2
	根 山	8.3	3	鹿 児 島	8.8	3	鹿 児 島	9.6	3	秋 田	10.1	3	秋 田	11.4	3
	和 歌 山	8.2	4	徳 島	8.7	4	鳥 取	9.4	4	山 口	10.0	4	山 口	11.2	4
	徳 島	8.0	5	和 歌 山	8.7	5	山 口	9.4	5	鳥 取	9.7	5	山 形	11.0	5
	山 形	7.8	6	鳥 取	8.5	6	和 歌 山	9.4	6	徳 島	9.7	6	和 歌 山	10.9	6
	鳥 取	7.8	7	山 口	8.5	7	徳 島	9.2	7	和 歌 山	9.6	7	鹿 児 島	10.9	7
	大 分	7.8	8	山 形	8.3	8	秋 田	9.0	8	山 形	9.6	8	徳 島	10.7	8
	山 口	7.7	9	大 分	8.3	9	佐 賀	9.0	9	鹿 児 島	9.5	9	岩 手	10.6	9
佐 賀	7.6	10	佐 賀	8.3	10	愛 媛	9.0	10	大 分	9.3	10	愛 媛	10.6	10	
低 率 順	沖 縄	4.5	1	埼 玉	4.9	1	埼 玉	5.5	1	埼 玉	5.9	1	沖 縄	6.7	1
	埼 玉	4.5	2	神 奈 川	5.0	2	神 奈 川	5.7	2	神 奈 川	6.0	2	神 奈 川	6.8	2
	神 奈 川	4.6	3	千 葉	5.2	3	沖 縄	5.8	3	沖 縄	6.1	3	埼 玉	6.9	3
	千 葉	4.8	4	沖 縄	5.3	4	千 葉	6.0	4	千 葉	6.3	4	千 葉	7.4	4
	愛 知	5.1	5	愛 知	5.7	5	愛 知	6.3	5	愛 知	6.6	5	愛 知	7.4	5
高 率 順	全 国	9.5		全 国	10.0		全 国	10.1		全 国	10.1		全 国	10.3	
	秋 田	13.2	1	秋 田	14.0	1	秋 田	14.2	1	秋 田	14.6	1	秋 田	14.5	1
	高 知	12.8	2	島 根	13.6	2	高 知	13.8	2	高 知	13.6	2	島 根	13.9	2
	島 根	12.8	3	高 知	13.5	3	島 根	13.7	3	島 根	13.5	3	高 知	13.8	3
	山 口	12.3	4	山 形	12.9	4	山 形	13.2	4	山 形	13.4	4	山 形	13.4	4
	山 形	12.1	5	青 森	12.8	5	山 口	13.1	5	和 歌 山	13.0	5	青 森	13.1	5
	和 歌 山	12.1	6	山 口	12.8	6	和 歌 山	13.1	6	徳 島	13.0	6	徳 島	13.1	6
	鹿 児 島	11.9	7	徳 島	12.7	7	徳 島	13.1	7	青 森	12.9	7	和 歌 山	13.1	7
	徳 島	11.9	8	和 歌 山	12.7	8	青 森	12.8	8	鹿 児 島	12.9	8	山 口	13.1	8
	岩 手	11.9	9	鹿 児 島	12.6	9	鳥 取	12.7	9	山 口	12.8	9	鹿 児 島	13.0	9
鳥 取	11.9	10	岩 手	12.4	10	鹿 児 島	12.6	10	岩 手	12.7	10	岩 手	12.9	10	
低 率 順	沖 縄	7.3	1	沖 縄	7.6	1	沖 縄	7.8	1	沖 縄	8.1	1	沖 縄	8.0	1
	神 奈 川	7.6	2	神 奈 川	8.0	2	神 奈 川	8.1	2	神 奈 川	8.3	2	神 奈 川	8.4	2
	埼 玉	7.8	3	埼 玉	8.3	3	埼 玉	8.4	3	東 京	8.5	3	東 京	8.5	3
	愛 知	8.1	4	愛 知	8.4	4	東 京	8.5	4	愛 知	8.6	4	埼 玉	8.7	4
	東 京	8.1	5	東 京	8.5	5	愛 知	8.6	5	埼 玉	8.6	5	愛 知	8.8	5

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮。

ウ 死因

(ア) 死因順位

平成27年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 18,823人（死亡総数の30.1%）、第2位は心疾患 10,123人（16.2%）、第3位は肺炎 6,384人（10.2%）、第4位は脳血管疾患 5,143人（8.2%）、第5位は老衰 3,294人（5.3%）となっている。

死亡率（人口10万対）を前年と比較すると、悪性新生物（262.9）が2.5ポイント、肺炎（89.2）が1.4ポイント、老衰（46.0）が6.8ポイント、大動脈瘤及び解離（10.1）が0.5ポイント上昇した。一方、心疾患（141.4）が2.3ポイント、脳血管疾患（71.8）が0.4ポイント、不慮の事故（19.6）が1.7ポイント、自殺（18.0）が0.7ポイント、腎不全（15.9）が0.1ポイント、肝疾患（10.9）が0.2ポイント低下した。（表－8）

表－8 主な死因別死亡数及び死亡率（対前年比較）

埼玉県

死 因	平成27年			平成26年			平成26年との比較		
	数	率（人口10万対）	死亡総数に占める割合	数	率（人口10万対）	死亡総数に占める割合	数	率（人口10万対）	死亡総数に占める割合
総 数	62 565	873.8	100.0	61 269	857.7	100.0	1 296	16.1	
悪 性 新 生 物	18 823	262.9	30.1	18 599	260.4	30.4	224	2.5	△ 0.3
心 疾 患	10 123	141.4	16.2	10 263	143.7	16.8	△ 140	△ 2.3	△ 0.6
肺 炎	6 384	89.2	10.2	6 275	87.8	10.2	109	1.4	-
脳 血 管 疾 患	5 143	71.8	8.2	5 155	72.2	8.4	△ 12	△ 0.4	△ 0.2
老 衰	3 294	46.0	5.3	2 800	39.2	4.6	494	6.8	0.7
不 慮 の 事 故	1 406	19.6	2.2	1 523	21.3	2.5	△ 117	△ 1.7	△ 0.3
自 殺	1 287	18.0	2.1	1 337	18.7	2.2	△ 50	△ 0.7	△ 0.1
腎 不 全	1 138	15.9	1.8	1 146	16.0	1.9	△ 8	△ 0.1	△ 0.1
肝 疾 患	782	10.9	1.2	791	11.1	1.3	△ 9	△ 0.2	△ 0.1
大動脈瘤及び解離	724	10.1	1.2	683	9.6	1.1	41	0.5	0.1
小 計	49 104	685.8	78.5	48 572	680.0	79.3	532	5.8	△ 0.8
そ の 他	13 461	188.0	21.5	12 697	177.7	20.7	764	10.3	0.8

死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇が続き、平成15年には200.0を超え、平成27年は262.9となった。また、死因順位は、昭和56年以降第1位となり、平成27年の死亡総数に占める割合は30.1%となっている。

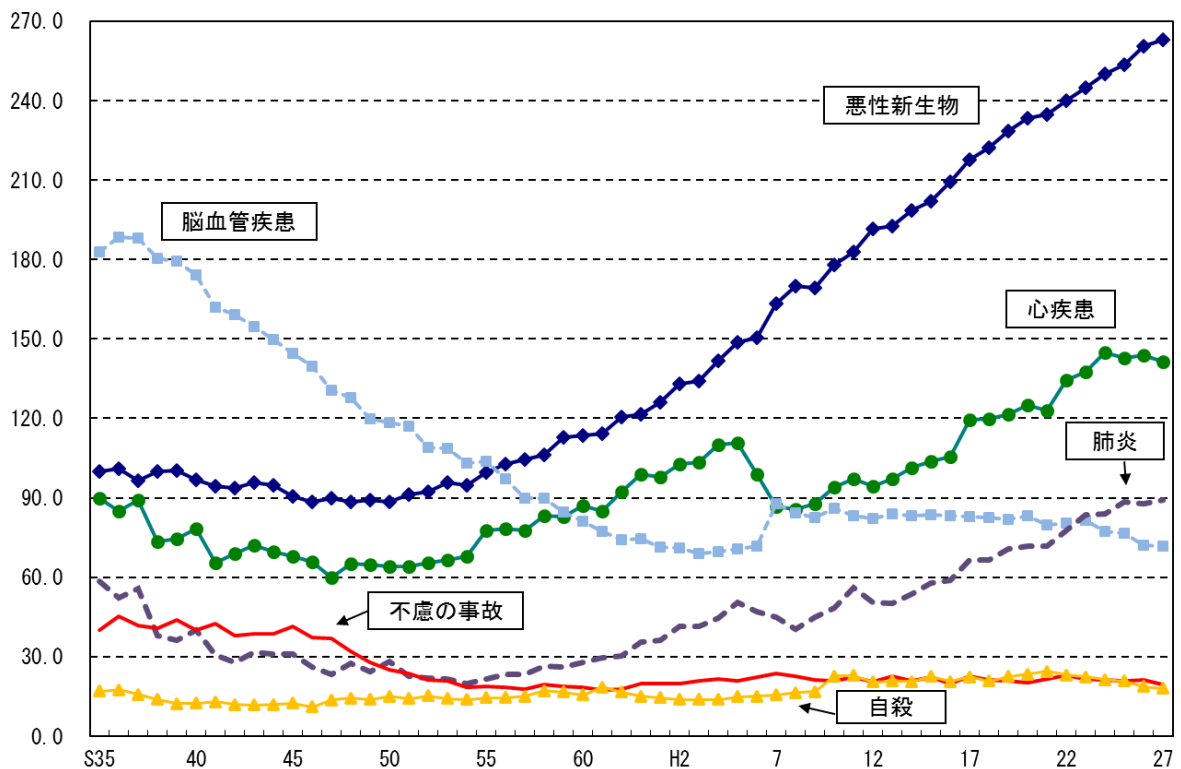
心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。平成27年の死亡総数に占める割合は16.2%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にある。平成23年には、肺炎にかわり第4位となり、平成27年の死亡総数に占める割合は8.2%となっている。（表－8、図－6）

なお、平成6、7年の心疾患及び脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる（図－6の「注」を参照）。

図－6 主要死因別死亡率の年次推移（埼玉県）

死亡率（人口10万対）



注：死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

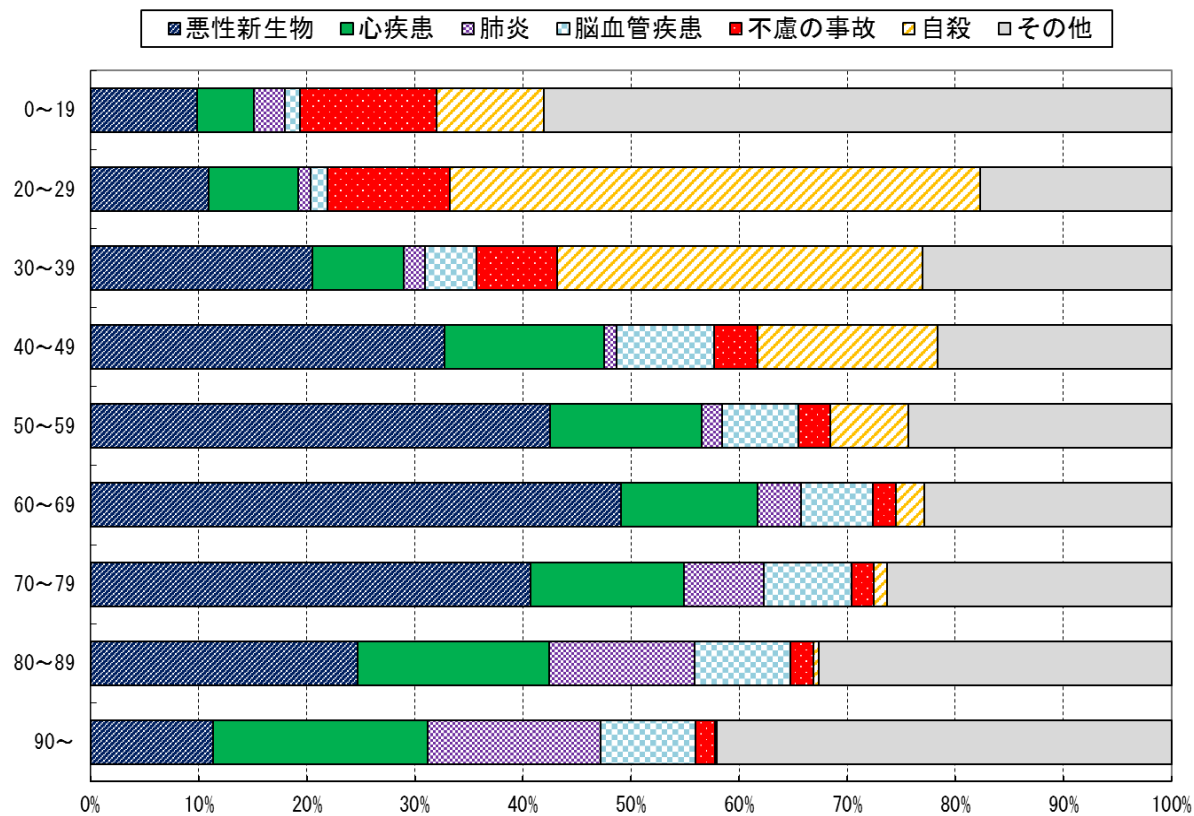
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。

なお、逆に肺炎は減少している。

年齢階級別に死因別割合をみると、19歳以下では不慮の事故、20歳～30歳代では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。（図一7）

図一7 年齢階級別にみた主要死因別割合（埼玉県）



(イ) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は18,823人で、死亡総数の30.1%を占めている。つまり、全死亡者のおよそ3人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、70～79歳が6,437人で最も多く、次いで80～89歳が5,292人、60～69歳が3,928人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が49.1%で最も多く、次いで50～59歳が42.5%、70～79歳が40.7%の順となっている。（表－9）

死亡率は人口10万人に対し262.9で、前年より2.5ポイント上昇した。全国は前年より2.0ポイント上昇し295.5である。埼玉県及び全国の死亡率は上昇を続けている。

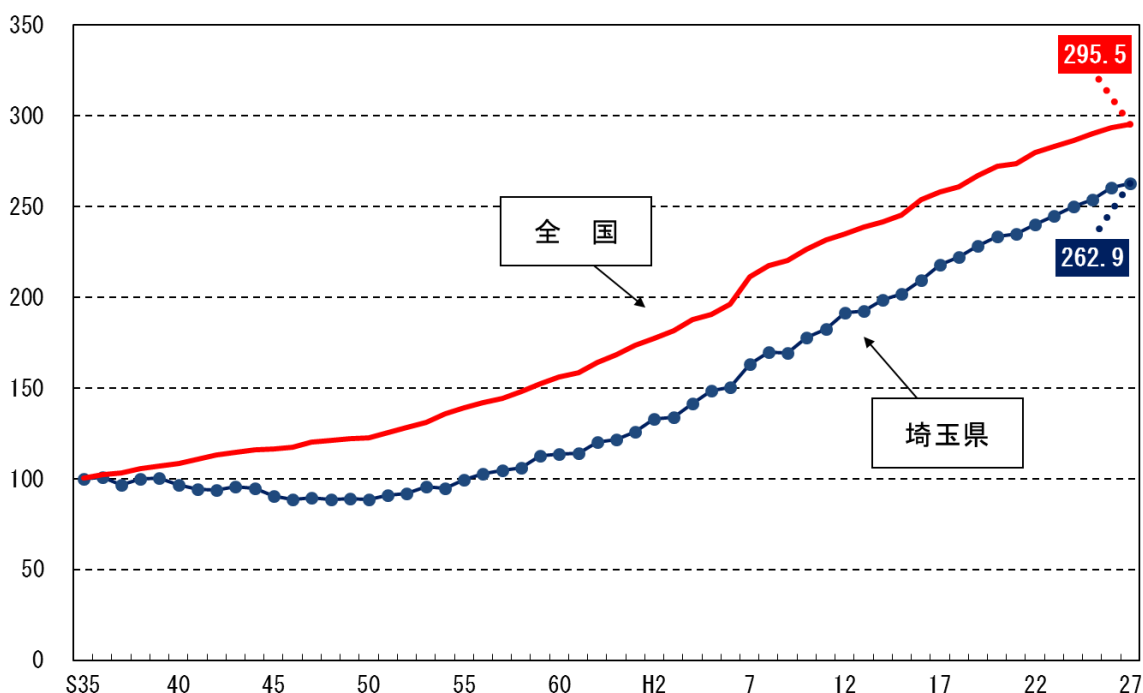
（図－8）

表－9 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県											
	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	62 565	284	265	521	1 460	2 699	8 003	15 804	21 390	12 137	2
悪性新生物による死亡数	18 823	28	29	107	478	1 148	3 928	6 437	5 292	1 376	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.2%	0.6%	2.5%	6.1%	20.9%	34.2%	28.1%	7.3%	-
死亡総数に占める割合	30.1%	9.9%	10.9%	20.5%	32.7%	42.5%	49.1%	40.7%	24.7%	11.3%	-

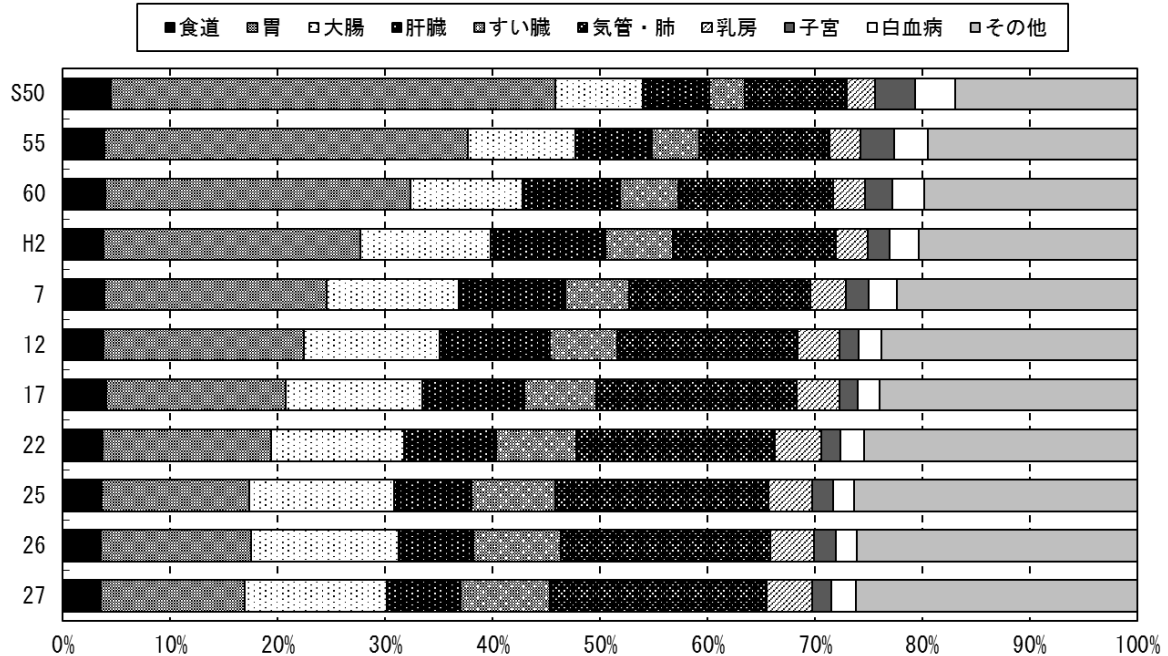
図－8 悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



部位別にみると、平成 27 年は「気管・気管支及び肺」が 3,788 人（20.1%）で最も多く、次いで「胃」が 2,520 人（13.4%）、「大腸」が 2,494 人（13.2%）の順となっている。（図－9、表－10）

図－9 悪性新生物の部位別割合の推移（埼玉県）



表－10 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県														
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	26	27	
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	18 100	18 599	18 823	
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	652	655	662	
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 487	2 603	2 520	
大腸	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 437	2 549	2 494	
（結腸）	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 681	1 716	1 694	
（直腸）	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	756	833	800	
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 302	1 303	1 294	
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 411	1 513	1 567	
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 593	3 618	3 788	
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	745	760	806	
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	350	376	331	
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	350	365	435	
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 773	4 857	4 926	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
食道	4.9	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	3.7	3.6	3.5	3.5	
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	13.7	14.0	13.4	
大腸	8.1	10.0	10.4	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.5	13.7	13.2	
（結腸）	4.2	5.4	6.2	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	9.3	9.2	9.0	
（直腸）	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.5	4.3	
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	9.9	10.2	9.5	8.5	7.2	7.0	6.9	
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	7.8	8.1	8.3	
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	19.9	19.5	20.1	
乳房	1.6	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.1	4.1	4.3	
子宮	5.7	5.5	4.0	3.8	3.1	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.8	1.9	2.0	1.8	
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	1.9	2.0	2.3	
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	26.4	26.1	26.2	

部位別にみると、平成 27 年は「気管・気管支及び肺」が 3,788 人（20.1%）で最も多く、次いで「胃」が 2,520 人（13.4%）、「大腸」が 2,494 人（13.2%）の順となっている。（図 - 9、表 - 10）

図 - 9 悪性新生物の部位別割合の推移（埼玉県）

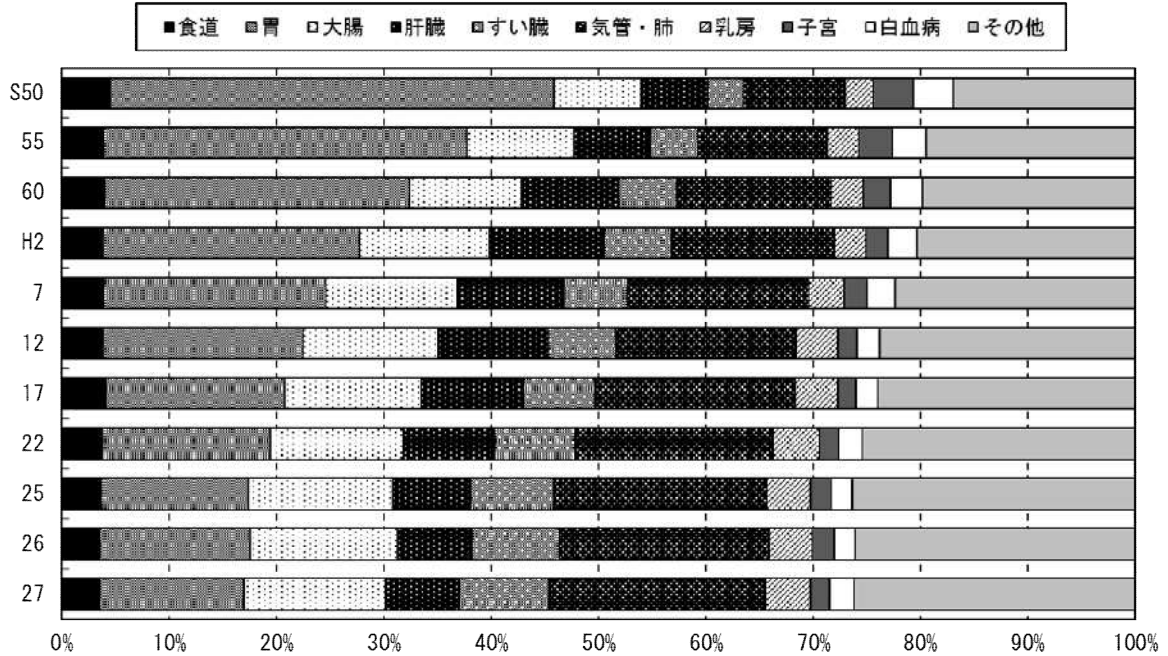


表 - 10 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県													
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	26	27
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	16 531	18 100	18 599	18 823
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	658	652	655	662
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 507	2 487	2 603	2 520
大腸	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 165	2 437	2 549	2 494
（結腸）	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 403	1 681	1 716	1 694
（直腸）	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	762	756	833	800
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 375	1 302	1 303	1 294
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 192	1 411	1 513	1 567
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 185	3 593	3 618	3 788
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	677	745	760	806
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	306	350	376	331
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	337	350	365	435
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 129	4 773	4 857	4 926
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食道	5.0	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.1	4.0	3.6	3.5	3.5
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.2	13.7	14.0	13.4
大腸	8.1	10.1	10.3	12.1	12.3	12.7	12.7	13.1	13.5	13.7	13.2
（結腸）	4.2	5.4	6.1	7.8	8.0	8.4	8.4	8.5	9.3	9.2	9.0
（直腸）	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.6	4.2	4.5	4.2
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	10.0	10.2	9.5	8.3	7.2	7.0	6.9
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.2	7.8	8.1	8.3
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	19.3	19.9	19.5	20.1
乳房	1.7	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.1	4.1	4.1	4.3
子宮	5.7	5.4	4.0	3.8	3.1	2.5	2.0	2.1	1.8	1.7	1.9	1.9	2.0	1.8
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.0	1.9	2.0	2.3
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.0	26.4	26.1	26.2

(ウ) 心疾患

心疾患による死亡数は10,123人で、死亡総数の16.2%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が3,791人で最も多く、90歳以上が2,410人、70～79歳が2,239人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が19.9%で最も多く、80～89歳が17.7%、40～49歳が14.8%の順となっている。(表 - 11)

死亡率(人口10万対)は平成7年1月に死亡分類及び死亡診断書の改正が行われた影響で、平成7年に一度大幅な低下を見せたものの、その後は上昇傾向にある。しかし、平成27年は前年より2.3ポイント低下し141.4であった。全国は前年より0.5ポイント低下し156.5である。(図 - 10)

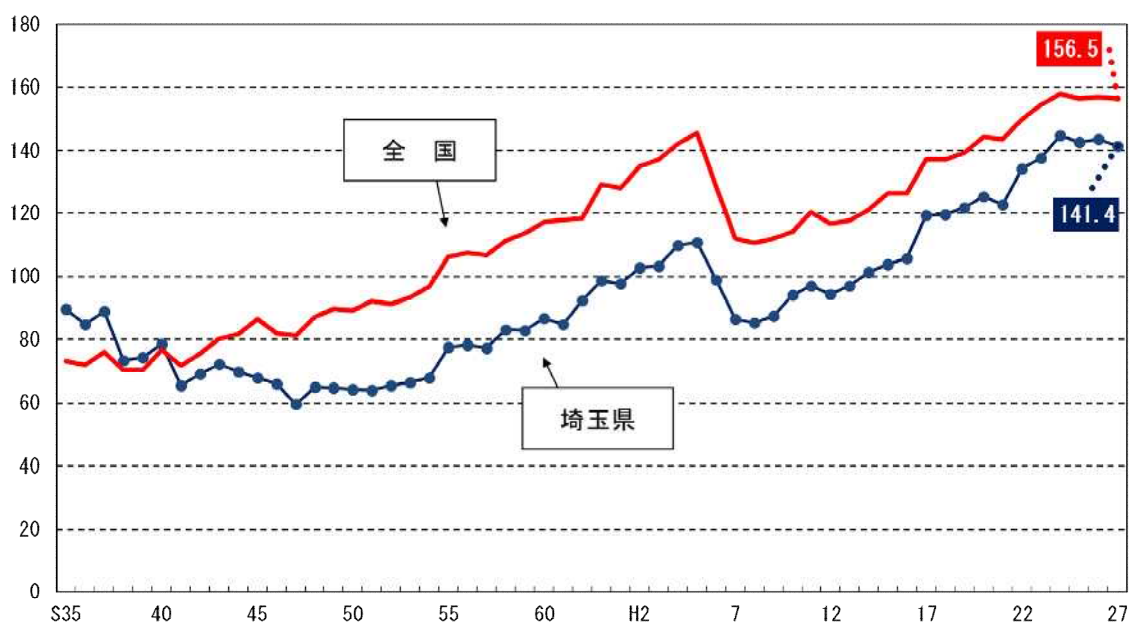
表 - 11 心疾患による死亡数及び割合(年齢階級別)

埼玉県

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	62 565	284	265	521	1 460	2 699	8 003	15 804	21 390	12 137	2
心疾患による死亡数	10 123	15	22	44	216	379	1 007	2 239	3 791	2 410	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.2%	0.2%	0.4%	2.1%	3.7%	10.0%	22.1%	37.5%	23.8%	-
死亡総数に占める割合	16.2%	5.3%	8.3%	8.4%	14.8%	14.0%	12.6%	14.2%	17.7%	19.9%	-

図 - 10 心疾患による死亡率の年次推移(埼玉県・全国)

死亡率(人口10万対)



(エ) 肺炎

肺炎による死亡数は6,384人で、死亡総数の10.2%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,864人で最も多く、90歳以上が1,938人、70～79歳が1,169人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が16.0%で最も多く、80～89歳が13.4%、70～79歳が7.4%の順となっている。(表 - 12)

死亡率は人口10万人に対し89.2で、前年より1.4ポイント上昇した。全国は前年より1.1ポイント上昇し96.5である。埼玉県及び全国の死亡率は総じて上昇傾向にある。

(図 - 11)

表 - 12 肺炎による死亡数及び割合(年齢階級別)

埼玉県

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	62 565	284	265	521	1 460	2 699	8 003	15 804	21 390	12 137	2
肺炎による死亡数	6 384	8	3	10	17	50	325	1 169	2 864	1 938	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.3%	0.8%	5.1%	18.3%	44.9%	30.4%	-
死亡総数に占める割合	10.2%	2.8%	1.1%	1.9%	1.2%	1.9%	4.1%	7.4%	13.4%	16.0%	-

図 - 11 肺炎による死亡率の年次推移(埼玉県・全国)

死亡率(人口10万対)



(オ) 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は5,143人で、死亡総数の8.2%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が1,908人で最も多く、70～79歳が1,276人、90歳以上が1,070人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、40～49歳が9.0%で最も多く、次いで80～89歳が8.9%、90歳以上が8.8%、70～79歳が8.1%の順となっている。(表-13)

死亡率(人口10万対)は前年より0.4ポイント低下し71.8で、近年は横ばいから低下傾向にある。全国は前年より1.7ポイント低下し89.4である。(図-12)

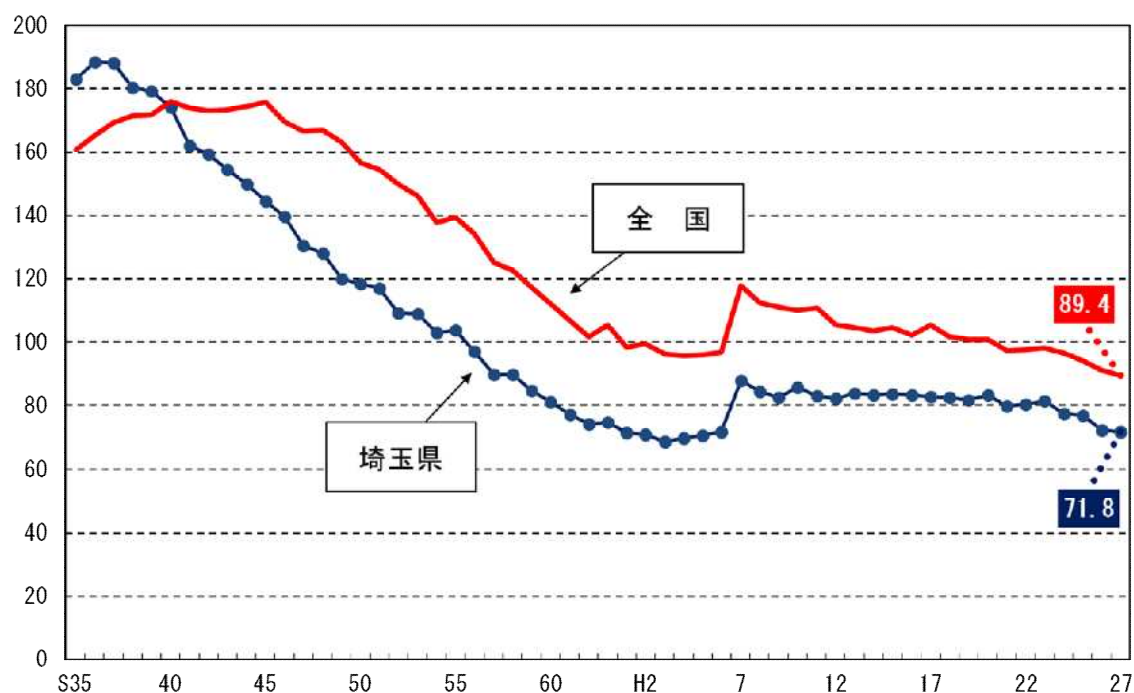
表 - 13 脳血管疾患による死亡数及び割合(年齢階級別)

埼玉県

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	62 565	284	265	521	1 460	2 699	8 003	15 804	21 390	12 137	2
脳血管疾患による死亡数	5 143	4	4	25	131	190	535	1 276	1 908	1 070	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.1%	0.5%	2.5%	3.7%	10.4%	24.8%	37.1%	20.8%	-
死亡総数に占める割合	8.2%	1.4%	1.5%	4.8%	9.0%	7.0%	6.7%	8.1%	8.9%	8.8%	-

図 - 12 脳血管疾患による死亡率の年次推移(埼玉県・全国)

死亡率(人口10万対)



(カ) 不慮の事故

不慮の事故による死亡数は1,406人で、死亡総数の2.2%を占めている。前年より117人減少した。

年齢階級別にみると、80～89歳が453人で最も多く、次いで70～79歳が324人、90歳以上が219人の順となっている。(表 - 14)

死亡率は人口10万人に対し19.6で、平成16年以来11年ぶりに20.0を下回った。

不慮の事故のうち交通事故による死亡数は減少傾向にある。平成27年の死亡数は252人、死亡率(人口10万対)は3.5で、前年より0.1ポイント低下した。

なお全国は、不慮の事故が前年より0.5ポイント低下し30.6、交通事故が前年より0.1ポイント低下し4.5である。(表 - 15)

表 - 14 不慮の事故、交通事故による死亡数及び割合(年齢階級別)

埼玉県

	総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～	不詳
死亡総数	62 565	284	265	521	1 460	2 699	8 003	15 804	21 390	12 137	2
不慮の事故による死亡数	1 406	36	30	39	59	80	166	324	453	219	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	2.6%	2.1%	2.8%	4.2%	5.7%	11.8%	23.0%	32.2%	15.6%	-
死亡総数に占める割合	2.2%	12.7%	11.3%	7.5%	4.0%	3.0%	2.1%	2.1%	2.1%	1.8%	-
不慮の事故のうち交通事故による死亡数	252	20	20	15	23	32	42	52	42	6	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	7.9%	7.9%	6.0%	9.1%	12.7%	16.7%	20.6%	16.7%	2.4%	-
不慮の事故に占める交通事故の割合	17.9%	55.6%	66.7%	38.5%	39.0%	40.0%	25.3%	16.0%	9.3%	2.7%	-

表 - 15 不慮の事故、交通事故による死亡数の年次推移

	不慮の事故						交通事故			
	埼玉県		全国		埼玉県			全国		
	数	率(人口10万対)	数	率(人口10万対)	数	率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合	数	率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合
S 35	970	39.9	38 964	41.7	468	19.3	48.2	13 429	14.4	34.5
40	1 207	40.0	40 188	40.9	671	20.3	55.6	16 257	16.5	40.5
45	1 599	41.4	43 802	42.5	983	25.4	61.5	21 535	20.9	49.2
50	1 201	24.9	33 710	30.3	628	13.0	52.3	14 206	12.8	42.1
55	1 018	18.8	29 217	25.1	488	9.0	47.9	11 752	10.1	40.2
60	1 085	18.5	29 597	24.6	587	10.0	54.1	12 660	10.5	42.8
H 2	1 262	19.7	32 122	26.2	703	11.0	55.7	14 631	11.9	45.5
7	1 575	23.5	45 323	36.5	683	10.2	43.4	15 147	12.2	33.4
12	1 405	20.4	39 484	31.4	541	7.9	38.5	12 857	10.2	32.6
13	1 570	22.7	39 496	31.4	568	8.2	36.2	12 378	9.8	31.3
14	1 442	20.8	38 643	30.7	491	7.1	34.0	11 743	9.3	30.4
15	1 548	22.3	38 714	30.7	538	7.7	34.8	10 913	8.7	28.2
16	1 385	19.9	38 193	30.3	421	6.0	30.4	10 551	8.4	27.6
17	1 577	22.6	39 863	31.6	472	6.8	29.9	10 028	7.9	25.2
18	1 475	21.1	38 270	30.3	412	5.9	27.9	9 048	7.2	23.6
19	1 460	20.8	37 966	30.1	354	5.1	24.2	8 268	6.6	21.8
20	1 413	20.1	38 153	30.3	342	4.9	24.2	7 499	6.0	19.7
21	1 513	21.5	37 756	30.0	332	4.7	21.9	7 309	5.8	19.4
22	1 635	23.0	40 732	32.2	300	4.2	18.3	7 222	5.7	17.7
23	1 536	21.6	59 416	47.1	315	4.4	20.5	6 741	5.3	11.3
24	1 514	21.2	41 031	32.6	297	4.2	19.6	6 414	5.1	15.6
25	1 481	20.8	39 574	31.5	288	4.0	19.4	6 060	4.8	15.3
26	1 523	21.3	39 029	31.1	254	3.6	16.7	5 717	4.6	14.6
27	1 406	19.6	38 306	30.6	252	3.5	17.9	5 646	4.5	14.7

注：昭和35年から平成2年は「自動車事故」の数、平成7年以降は「交通事故」の数である。

(キ) 自殺

自殺による死亡数は1,287人（男性868人、女性419人）で、死亡総数の2.1%を占めている。前年より50人減少した。死亡率は人口10万人に対し18.0で、前年より0.7ポイント低下した。（表 - 16）

年齢階級別にみると、70歳以上が306人（23.8%）で最も多く、次いで40～49歳が243人（18.9%）、60～69歳が210人（16.3%）となっている。（表 - 17）

表 - 16 自殺による死亡数及び死亡率の年次推移

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	26	27	
数	埼玉県	413	375	480	723	787	909	885	1 043	1 414	1 559	1 642	1 486	1 337	1 287
	全国	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	30 553	29 554	26 063	24 417	23 152
率	埼玉県	17.0	12.4	12.4	15.0	14.5	15.5	13.8	15.6	20.6	22.4	23.1	20.8	18.7	18.0
	全国	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	24.2	23.4	20.7	19.5	18.5

注：率は人口10万対である。

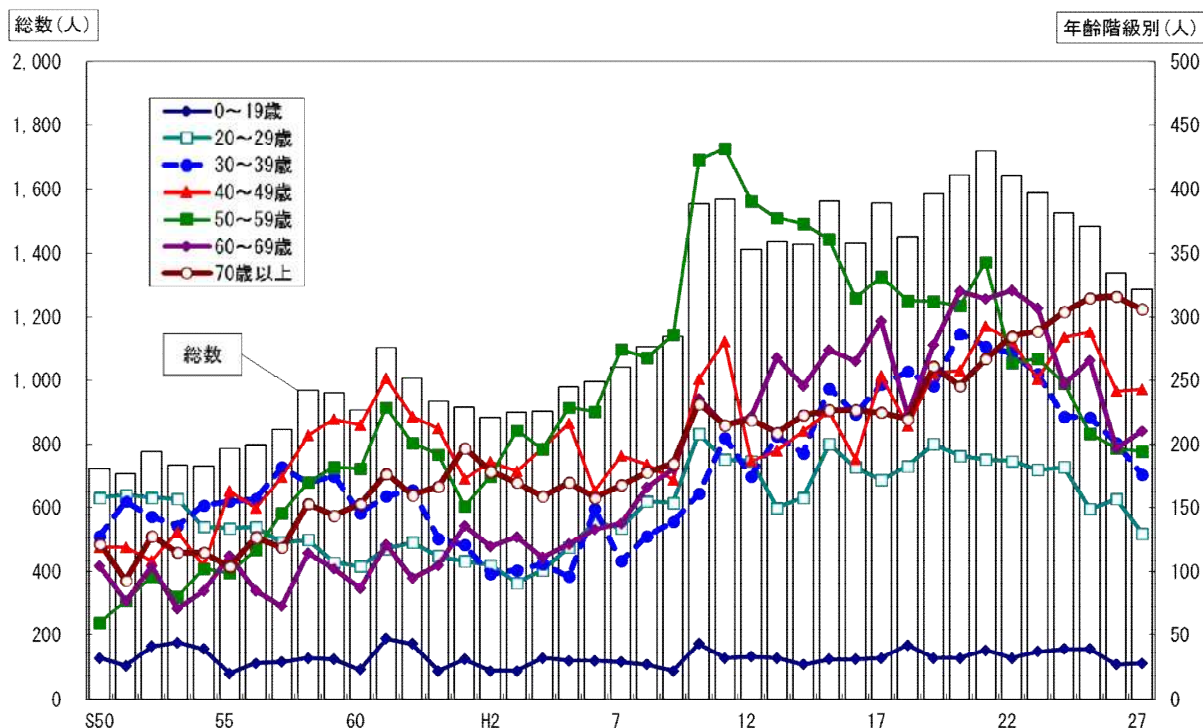
表 - 17 自殺による死亡数及び割合の年次推移（年齢階級別）

		総数	0～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	
		人	人	人	人	人	人	人	人	
S	35	413	47	143	45	37	44	47	50	
	40	375	32	88	65	36	37	59	58	
	45	480	28	117	81	53	57	62	82	
	50	723	32	158	128	119	60	104	122	
	55	787	20	134	155	163	99	112	104	
	60	909	23	104	146	215	181	87	153	
H	2	885	22	105	98	186	175	120	179	
	7	1 043	29	134	108	191	275	138	168	
	12	1 414	33	187	175	187	391	222	219	
	17	1 559	32	172	247	254	332	297	225	
	18	1 452	42	183	257	214	313	223	220	
	19	1 585	32	200	246	256	312	278	261	
	20	1 643	32	191	287	258	309	320	246	
	21	1 720	38	188	277	293	343	314	267	
	22	1 642	32	187	272	281	264	321	285	
	23	1 586	37	180	255	251	267	307	289	
	24	1 528	39	182	223	284	248	248	304	
	25	1 486	39	149	221	288	208	266	315	
	26	1 337	27	157	201	242	197	197	316	
	27	1 287	28	130	176	243	194	210	306	
S	35	100.0	11.4	34.6	10.9	9.0	10.6	11.4	12.1	
	40	100.0	8.5	23.5	17.3	9.6	9.9	15.7	15.5	
	45	100.0	5.8	24.4	16.9	11.0	11.9	12.9	17.1	
	50	100.0	4.4	21.8	17.7	16.5	8.3	14.4	16.9	
	55	100.0	2.6	17.0	19.7	20.7	12.6	14.2	13.2	
	60	100.0	2.5	11.4	16.1	23.7	19.9	9.6	16.8	
	H	2	100.0	2.5	11.9	11.1	21.0	19.8	13.5	20.2
		7	100.0	2.8	12.8	10.4	18.3	26.4	13.2	16.1
		12	100.0	2.3	13.2	12.4	13.2	27.7	15.7	15.5
		17	100.0	2.1	11.0	15.8	16.3	21.3	19.1	14.4
		18	100.0	2.9	12.6	17.7	14.7	21.6	15.4	15.2
		19	100.0	2.0	12.6	15.5	16.2	19.7	17.5	16.5
		20	100.0	1.9	11.6	17.5	15.7	18.8	19.5	15.0
		21	100.0	2.2	10.9	16.1	17.0	19.9	18.3	15.5
22		100.0	1.9	11.4	16.6	17.1	16.1	19.5	17.4	
23		100.0	2.3	11.4	16.1	15.8	16.8	19.4	18.2	
24	100.0	2.6	11.9	14.6	18.6	16.2	16.2	19.9		
25	100.0	2.6	10.0	14.9	19.4	14.0	17.9	21.2		
26	100.0	2.0	11.7	15.0	18.1	14.8	14.8	23.6		
27	100.0	2.2	10.1	13.7	18.9	15.0	16.3	23.8		

注：70歳以上には、年齢不詳を含む。

自殺による死亡総数は近年減少傾向にある。年齢階級別の死亡数では、20～29歳、30～39歳、50～59歳及び70歳以上が減少している。近年減少傾向であった40～49歳及び60～69歳が、平成27年は増加に転じた。年齢階級別の割合では、60歳以上が全体の4割を初めて超えた。（表 - 17、図 - 13）

図 - 13 自殺による死亡数の年次推移（年齢階級別）（埼玉県）



(ク) 妊産婦死亡

妊産婦死亡数は3人、妊産婦死亡率は出産（出生＋死産）10万人(胎)に対し5.2で、前年と同数・同率であった。全国の妊産婦死亡率は前年より1.1ポイント上昇し3.8である。（表 - 18、図 - 14）

表 - 18 妊産婦死亡数及び死亡率の年次推移

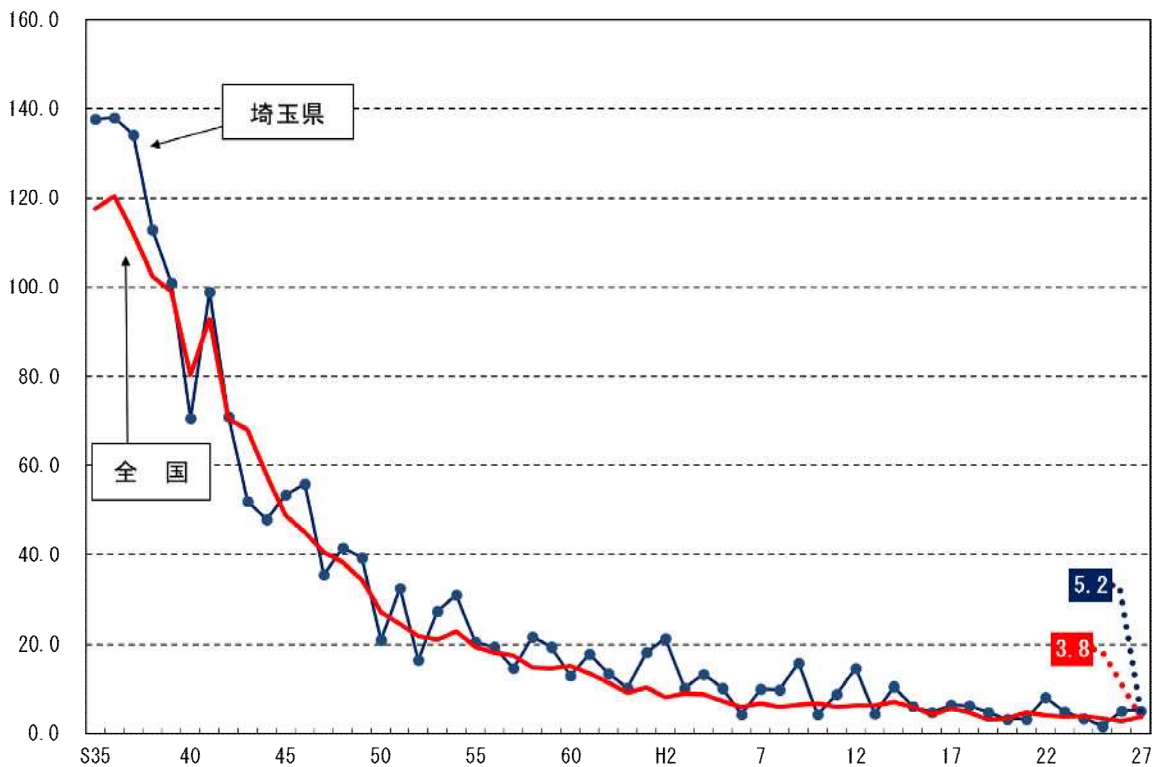
埼玉県

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	26	27
数	埼玉県	65	50	51	21	16	9	14	7	10	4	5	1	3	3
	全国	2 097	1 597	1 008	546	323	226	105	85	78	62	45	36	28	39
率	埼玉県	137.7	70.6	53.5	21.0	20.5	12.9	21.3	10.0	14.6	6.5	8.2	1.7	5.2	5.2
	全国	117.5	80.4	48.7	27.3	19.5	15.1	8.2	6.9	6.3	5.7	4.1	3.4	2.7	3.8

注：率は出産（出生＋死産）10万対である。

図 - 14 妊産婦死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

妊産婦死亡率(出産10万対)



エ 市町村別にみた死亡率

死亡率（人口千対）を市町村別にみると、低率順では、和光市（5.7）、戸田市（6.4）、伊奈町（6.5）の順である。

また、高率順では、小鹿野町（18.4）、東秩父村（17.9）、横瀬町（16.1）の順である。（表 - 19、図 - 15）

表 - 19 市町村別にみた死亡率（低率順）

埼玉県

順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率
1	和光市	5.7	22	白岡市	8.7	43	深谷市	10.7
2	戸田市	6.4	23	鴻巣市	8.7	44	熊谷市	10.9
3	伊奈町	6.5	24	川口市	8.8	45	鳩山町	11.0
4	朝霞市	6.6	25	春日部市	8.9	46	幸手市	11.2
5	吉川市	6.8	26	川越市	8.9	47	吉見町	11.3
6	鶴ヶ島市	7.0	27	北本市	8.9	48	嵐山町	11.3
7	八潮市	7.4	28	滑川町	9.0	49	羽生市	11.4
8	志木市	7.5	29	松伏町	9.0	50	寄居町	11.8
9	新座市	7.9	30	三芳町	9.1	51	本庄市	11.9
10	さいたま市	7.9	31	日高市	9.3	52	行田市	12.1
11	越谷市	8.0	32	久喜市	9.3	53	越生町	12.2
12	所沢市	8.0	33	杉戸町	9.4	54	神川町	13.4
13	草加市	8.1	34	東松山市	9.6	55	秩父市	13.5
14	上尾市	8.3	35	狭山市	9.6	56	小川町	13.5
15	坂戸市	8.3	36	蕨市	10.0	57	ときがわ町	13.7
16	入間市	8.3	37	毛呂山町	10.2	58	美里町	14.8
17	三郷市	8.3	38	川島町	10.2	59	皆野町	15.3
18	ふじみ野市	8.4	39	宮代町	10.3	60	長瀬町	15.5
19	富士見市	8.4	40	上里町	10.3	61	横瀬町	16.1
20	桶川市	8.4	41	飯能市	10.6	62	東秩父村	17.9
21	蓮田市	8.6	42	加須市	10.6	63	小鹿野町	18.4

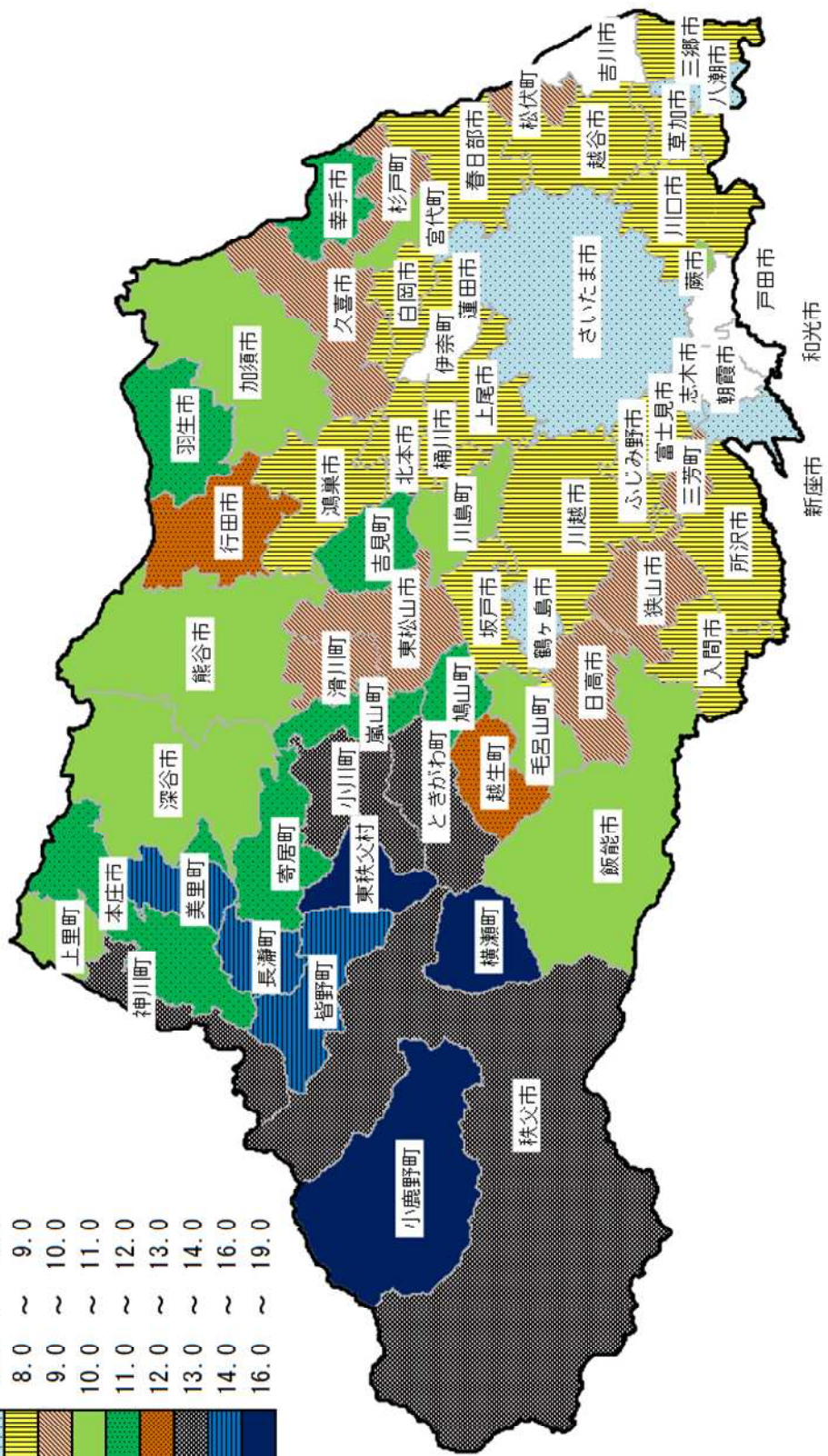
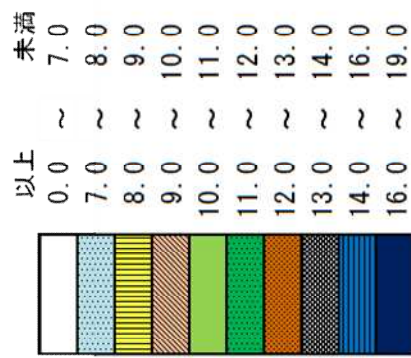
注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮。

图一15 死亡率（人口千対）一市町村別狀況一

全 国：10.3

埼玉県：8.7



(3) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡数は111人で、前年より7人減少した。乳児死亡率は出生千人に対し2.0で、前年より0.1ポイント低下した。

乳児死亡のうち新生児死亡数は、48人で前年より6人減少した。新生児死亡率は出生千人に対し0.9で、前年より0.1ポイント低下した。

全国は、乳児死亡率が前年より0.2ポイント低下し1.9、新生児死亡率が前年と同率の0.9であった。(表 - 20、図 - 16、図 - 17)

表 - 20 乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	
乳児	数	埼玉県	1 523	1 348	1 232	1 015	558	369	280
		全国	49 293	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616
	率	埼玉県	35.1	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4
		全国	30.7	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6
新生児	数	埼玉県	955	931	869	673	369	228	168
		全国	27 362	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179
	率	埼玉県	22.0	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7
		全国	17.0	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6

		7	12	17	22	25	26	27	
乳児	数	埼玉県	257	210	137	133	114	118	111
		全国	5 054	3 830	2 958	2 450	2 185	2 080	1 916
	率	埼玉県	3.8	3.2	2.3	2.2	2.0	2.1	2.0
		全国	4.3	3.2	2.8	2.3	2.1	2.1	1.9
新生児	数	埼玉県	124	105	61	62	50	54	48
		全国	2 615	2 106	1 510	1 167	1 026	952	902
	率	埼玉県	1.8	1.6	1.0	1.0	0.9	1.0	0.9
		全国	2.2	1.8	1.4	1.1	1.0	0.9	0.9

注：率は出生千対である。

図 - 16 乳児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

乳児死亡率(出生千対)

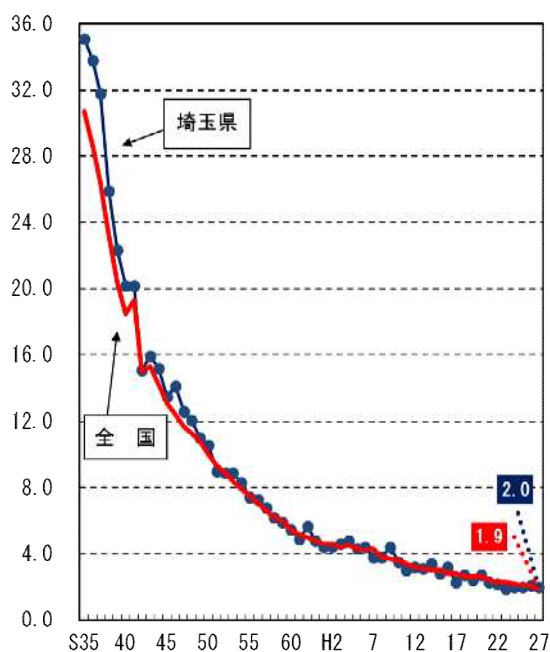
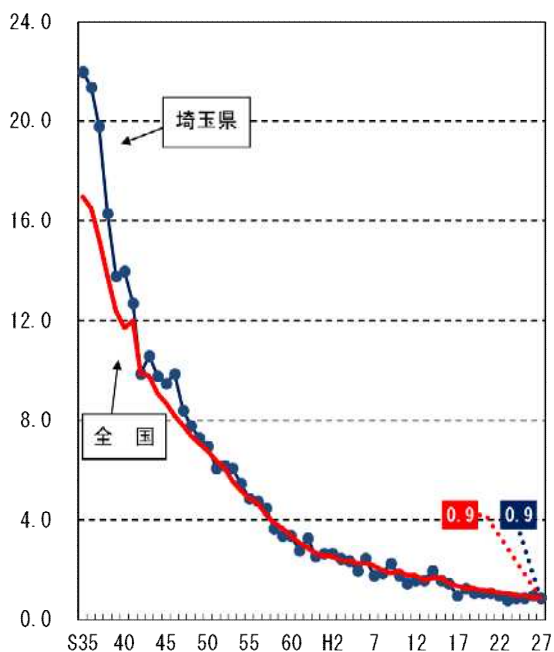


図 - 17 新生児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

新生児死亡率(出生千対)



(4) 自然増減

自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は 6,488人で、前年の 5,504人より984人減少し、平成24年に戦後初めて増加から減少に転じて以降、4年連続しての減少となった。

年次推移をみると、第2次ベビーブーム期の昭和46～49年には75,000人を超えていたがその後急激に減少し、平成15年に20,000人を、平成20年から10,000人を割っていた。

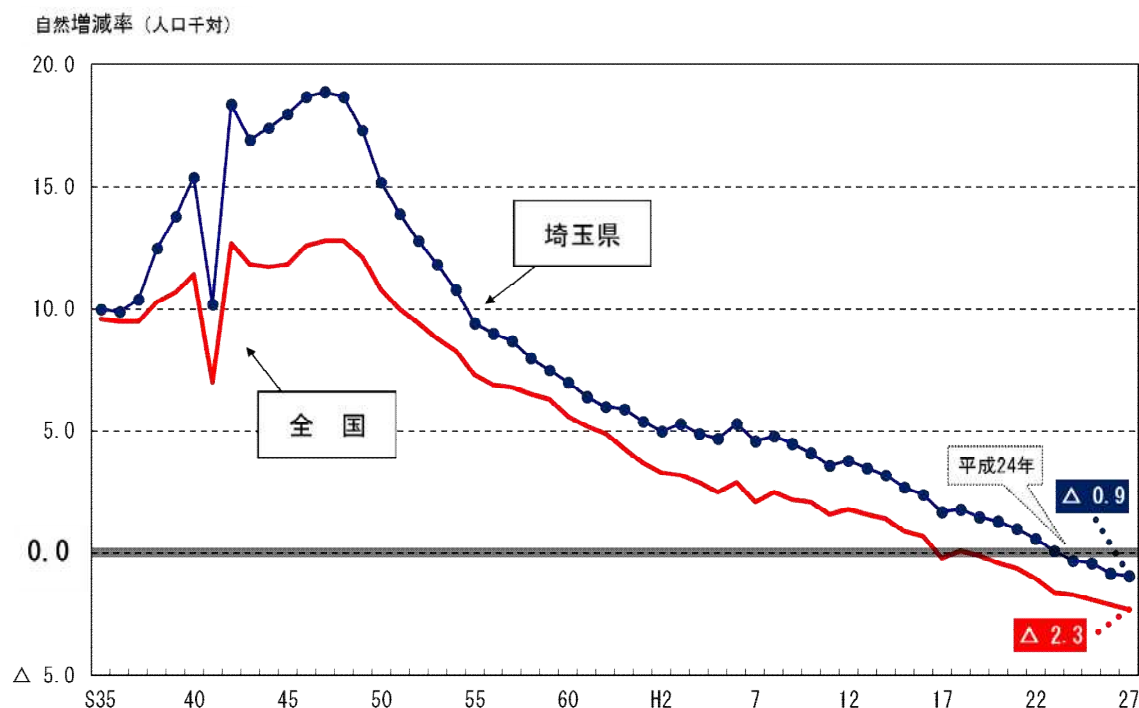
自然増減率は人口千人に対し 0.9で、前年より0.1ポイント低下した。全国は前年より0.2ポイント低下し 2.3であった。（表 - 21、図 - 18）

表 - 21 自然増減数及び自然増減率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	24 332	46 468	69 277	73 345	50 961	40 843	32 077
	全国	899 442	1 123 259	1 221 277	1 199 165	854 088	679 294	401 280
率	埼玉県	10.0	15.4	18.0	15.2	9.4	7.0	5.0
	全国	9.6	11.4	11.8	10.8	7.3	5.6	3.3
		7	12	17	22	25	26	27
数	埼玉県	30 951	25 890	11 636	3 950	2 794	5 504	6 488
	全国	264 925	228 894	21 266	125 708	238 620	269 465	284 767
率	埼玉県	4.6	3.8	1.7	0.6	0.4	0.8	0.9
	全国	2.1	1.8	0.2	1.0	1.9	2.1	2.3

注：率は人口千対である。

図 - 18 自然増減率の年次推移（埼玉県・全国）



市町村別にみると、高率順では、和光市（5.1）、戸田市（5.1）、朝霞市（3.7）の順である。

また、低率順では、東秩父村（14.8）、小鹿野町（14.6）、長瀨町（10.8）の順である。

自然増減数・率がマイナスの市町村は、前年より1市減少して63市町村中46市町村であった。（表 - 22、図 - 19）

表 - 22 市町村別にみた自然増減率（高率順）

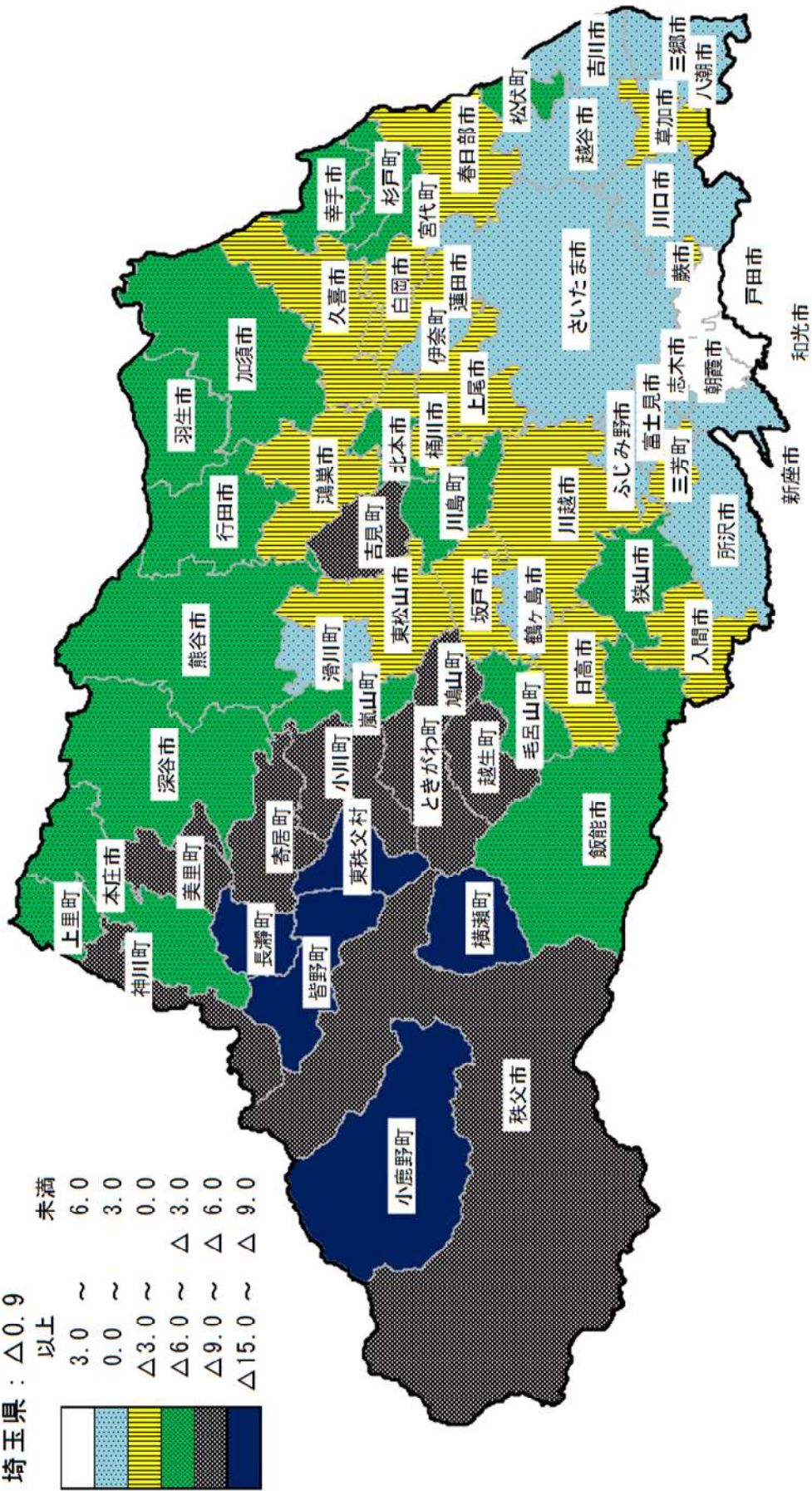
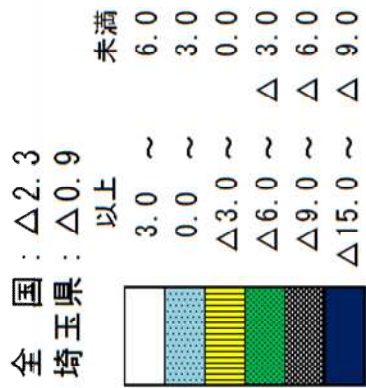
埼玉県

順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率
1	和光市	5.1	22	入間市	1.4	43	嵐山町	4.8
2	戸田市	5.1	23	坂戸市	1.4	44	本庄市	4.9
3	朝霞市	3.7	24	蕨市	1.5	45	羽生市	5.0
4	吉川市	2.7	25	蓮田市	1.9	46	毛呂山町	5.3
5	伊奈町	2.4	26	東松山市	1.9	47	川島町	5.3
6	八潮市	2.1	27	桶川市	1.9	48	幸手市	5.5
7	志木市	1.7	28	鴻巣市	1.9	49	行田市	5.5
8	滑川町	0.9	29	春日部市	2.2	50	寄居町	6.2
9	富士見市	0.8	30	三芳町	2.8	51	秩父市	6.6
10	さいたま市	0.7	31	久喜市	2.9	52	吉見町	7.2
11	新座市	0.5	32	日高市	3.0	53	鳩山町	7.7
12	三郷市	0.4	33	北本市	3.2	54	神川町	7.8
13	ふじみ野市	0.4	34	狭山市	3.2	55	美里町	8.2
14	鶴ヶ島市	0.2	35	熊谷市	3.4	56	越生町	8.2
15	越谷市	0.2	36	深谷市	3.4	57	小川町	8.6
16	川口市	0.1	37	上里町	3.5	58	ときがわ町	8.7
17	所沢市	0.1	38	宮代町	3.6	59	皆野町	10.1
18	草加市	0.5	39	松伏町	4.0	60	横瀬町	10.4
19	上尾市	0.6	40	杉戸町	4.1	61	長瀨町	10.8
20	川越市	1.1	41	飯能市	4.2	62	小鹿野町	14.6
21	白岡市	1.1	42	加須市	4.6	63	東秩父村	14.8

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮。

図一19 自然増減率（人口千対）一市町村別状況一



(5) 死産

死産数は1,350胎で、前年より32胎減少した。

死産率は出産千人(胎)に対し23.5で、前年より0.7ポイント低下したが、全国(22.0)を1.5ポイント上回っている。

また、死産の内訳をみると、自然死産は670胎で前年より5胎増加し、人工死産は680胎で前年より37胎減少した。(表-23、図-20、図-21)

表-23 死産数及び死産率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	26	27
死産数	埼玉県	3 794	4 237	4 277	3 795	2 792	2 630	2 324	1 944	1 907	1 637	1 375	1 401	1 382	1 350
	全国	179 281	161 617	135 095	101 862	77 446	69 009	53 892	39 403	38 393	31 818	26 560	24 102	23 524	22 617
	埼玉県	80.4	59.8	44.8	38.0	35.8	37.6	35.4	27.9	27.9	26.7	22.6	23.8	24.2	23.5
	全国	100.4	81.4	65.3	50.8	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	24.2	22.9	22.9	22.0
(自然)	埼玉県	2 491	3 077	3 307	2 976	2 021	1 521	1 226	1 057	941	780	690	697	665	670
	全国	93 424	94 476	84 073	67 643	47 651	33 114	23 383	18 262	16 200	13 502	12 245	10 938	10 905	10 862
	埼玉県	52.8	43.4	34.7	29.8	25.9	21.8	18.7	15.2	13.8	12.7	11.3	11.8	11.6	11.7
	全国	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	10.4	10.6	10.6
(人工)	埼玉県	1 303	1 160	970	819	771	1 109	1 098	887	966	857	685	704	717	680
	全国	85 857	67 141	51 022	34 219	29 795	35 895	30 509	21 141	22 193	18 316	14 315	13 164	12 619	11 755
	埼玉県	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	11.3	12.0	12.5	11.8
	全国	48.1	33.8	24.7	17.1	18.0	23.9	23.9	17.2	18.1	16.7	13.0	12.5	12.3	11.4

注：率は出産(出生+死産)千対である。

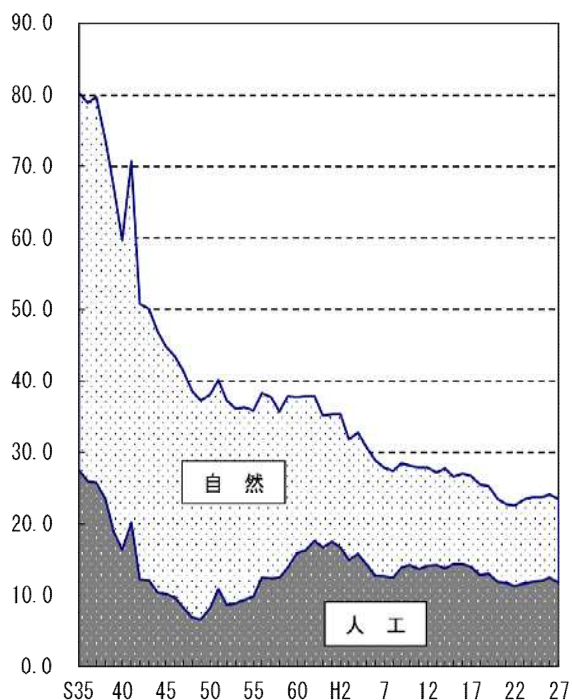
図-20 死産率の年次推移
(埼玉県・全国)

死産率(出産千対)



図-21 死産率(自然・人工)の年次推移(埼玉県)

死産率(出産千対)



(6) 周産期死亡

周産期死亡数は208人(胎)で、前年より13人(胎)減少した。

周産期死亡率は出産千人(胎)に対し3.7で、前年より0.3ポイント低下し、全国と同率となった。年次推移をみると、長期的に低下傾向にある。(表-24、図-22)

なお、平成7年の上昇は、周産期死亡の定義が変わり、後期死産が「妊娠満28週以後」から「妊娠満22週以後」に改められたことに原因があるものと考えられる。

表-24 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	26	27
周産期死亡数	埼玉県	1 892	1 956	1 889	1 546	899	555	401	476	397	281	252	216	221	208
	全国	66 552	54 094	41 917	30 513	18 385	11 470	7 001	8 412	6 881	5 149	4 515	3 862	3 750	3 728
周産期死亡率	埼玉県	43.6	29.4	20.7	16.1	12.0	8.3	6.3	7.0	6.0	4.7	4.2	3.7	4.0	3.7
	全国	41.4	30.1	21.7	16.0	11.7	8.0	5.7	7.0	5.8	4.8	4.2	3.7	3.7	3.7
後期死産数	埼玉県	1 287	1 306	1 213	1 014	603	380	275	385	319	242	205	179	181	175
	全国	49 512	39 955	29 107	20 268	12 231	7 733	4 664	6 580	5 362	4 058	3 637	3 111	3 039	3 063
後期死産率	埼玉県	29.6	19.6	13.3	10.6	8.0	5.6	4.3	5.7	4.8	4.0	3.4	3.1	3.2	3.1
	全国	30.8	21.9	15.0	10.7	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.4	3.0	3.0	3.0
早期新生児死亡数	埼玉県	605	650	676	532	296	175	126	91	78	39	47	37	40	33
	全国	17 040	14 949	12 810	10 245	6 154	3 737	2 337	1 832	1 519	1 091	878	752	711	665
早期新生児死亡率	埼玉県	13.9	9.8	7.4	5.5	3.9	2.6	2.0	1.3	1.2	0.7	0.8	0.6	0.7	0.6
	全国	10.6	8.2	6.6	5.4	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7

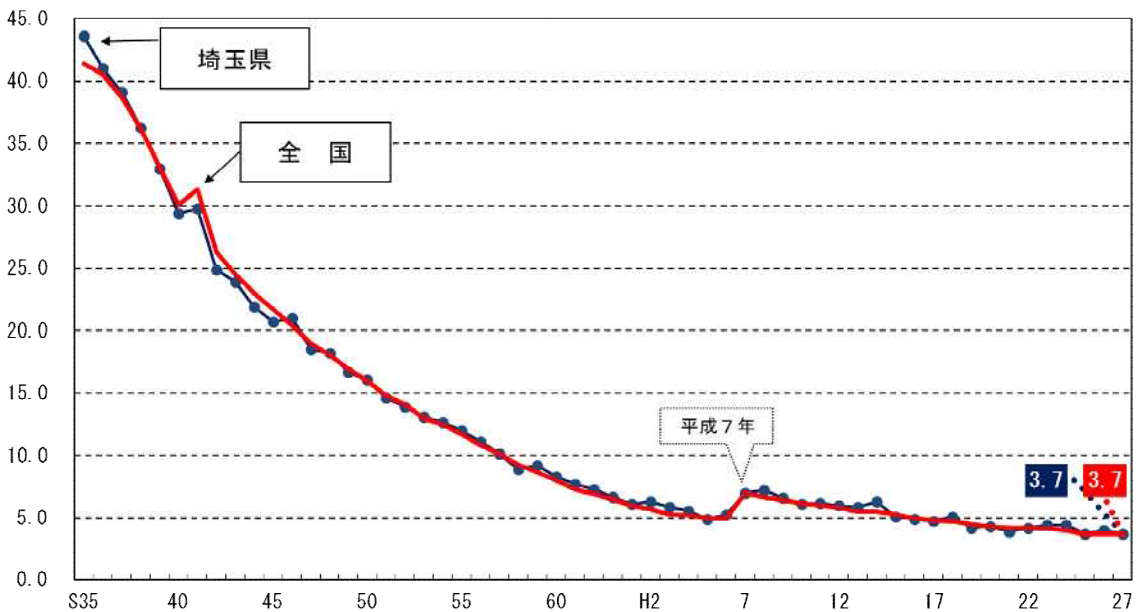
注1：周産期死亡率・後期死産率は出産(出生+後期死産)千対である。

注2：早期新生児死亡率は出生千対である。

注3：後期死産とは、妊娠満22週以後の死産である。

図-22 周産期死亡率の年次推移(埼玉県・全国)

周産期死亡率(出産千対)



(7) 婚 姻

婚姻件数は34,757組で、前年より461組減少した。

婚姻率は人口千人に対し4.9で、前年と同率であった。全国は前年と同率の5.1であった。(表 - 25)

婚姻率の年次推移をみると、昭和46年の11.7をピークに低下し、昭和63年(5.8)に上昇に転じたものの、平成5年を境として、総じて低下傾向にある。(図 - 23)

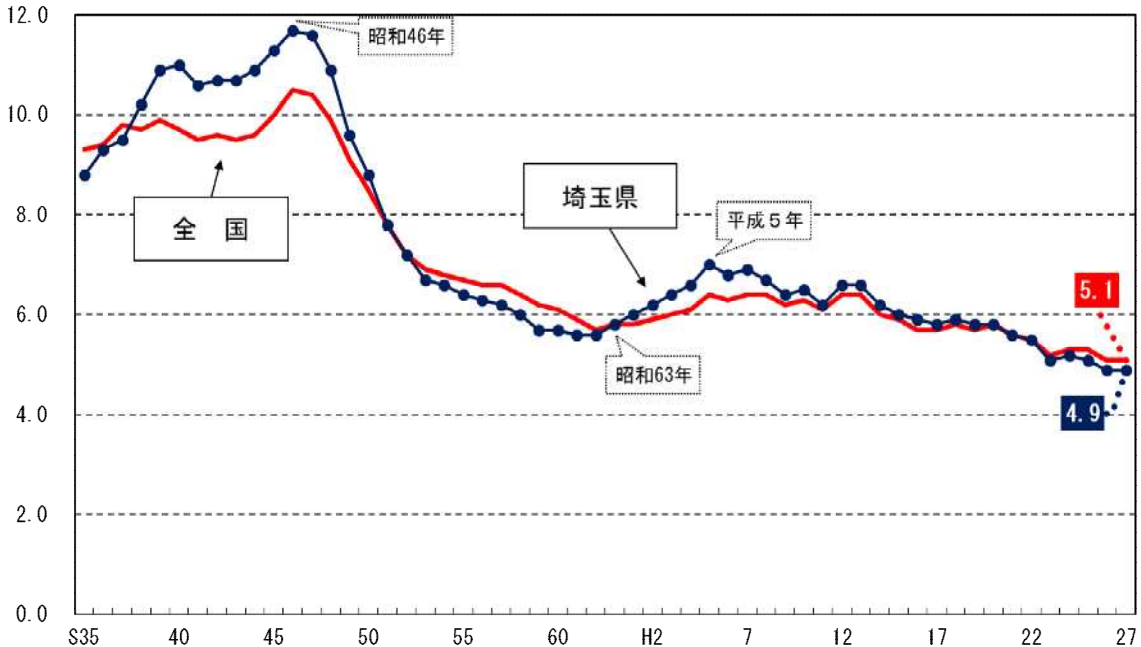
表 - 25 婚姻件数及び婚姻率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	21 485	33 131	43 517	42 340	34 708	33 446	39 234
	全 国	866 115	954 852	1 029 405	941 628	744 702	735 850	722 138
率	埼玉県	8.8	11.0	11.3	8.8	6.4	5.7	6.2
	全 国	9.3	9.7	10.0	8.5	6.7	6.1	5.9
		7	12	17	22	25	26	27
数	埼玉県	46 224	45 636	40 486	39 160	36 279	35 218	34 757
	全 国	791 888	798 138	714 265	700 214	660 613	643 749	635 156
率	埼玉県	6.9	6.6	5.8	5.5	5.1	4.9	4.9
	全 国	6.4	6.4	5.7	5.5	5.3	5.1	5.1

注：率は人口千対である。

図 - 23 婚姻率の年次推移（埼玉県・全国）

婚姻率（人口千対）



平均初婚年齢は、夫31.5歳、妻29.6歳で、前年と比べると夫、妻ともに0.1歳上昇した。全国は夫31.1歳、妻29.4歳と、前年と同じであった。（表 - 26）

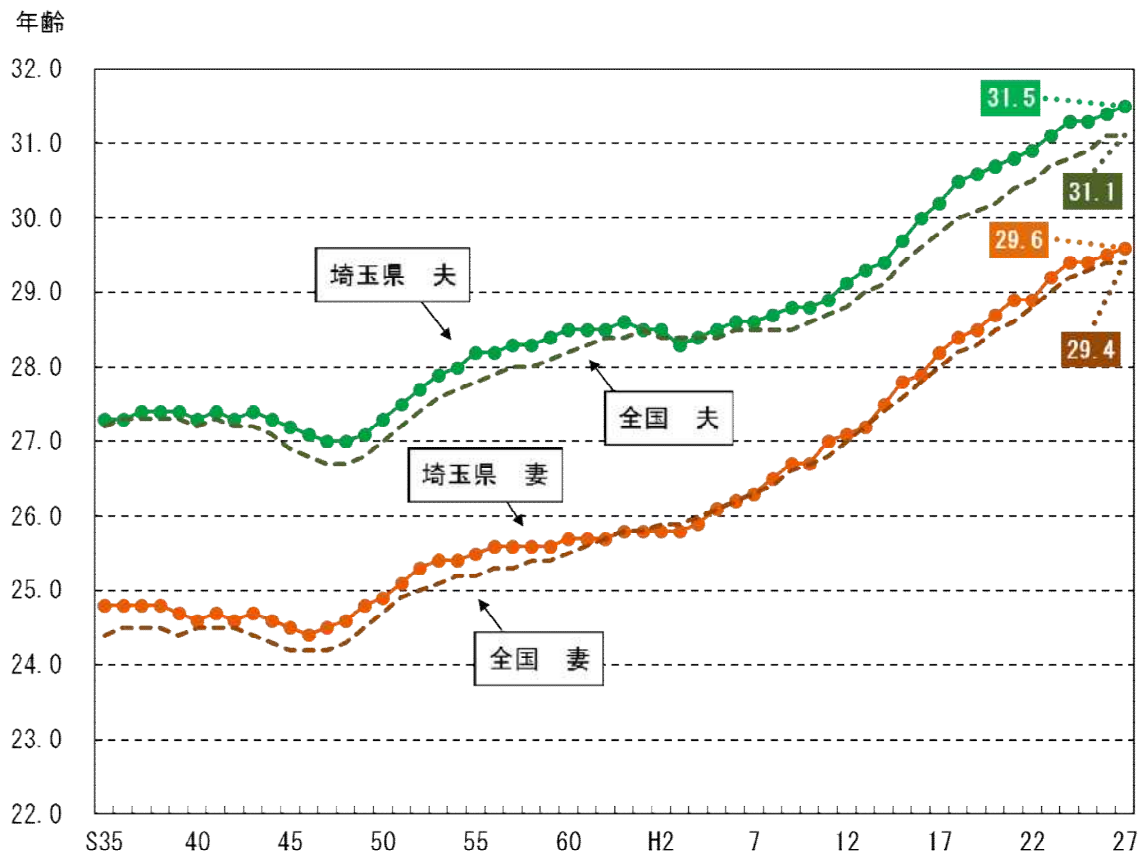
年次推移をみると、埼玉県、全国ともに上昇傾向にある。（図 - 24）

表 - 26 平均初婚年齢の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	25	26	27
夫	埼玉県	27.3	27.3	27.2	27.3	28.2	28.5	28.5	28.6	29.1	30.2	30.9	31.3	31.4	31.5
	全国	27.2	27.2	26.9	27.0	27.8	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	30.9	31.1	31.1
妻	埼玉県	24.8	24.6	24.5	24.9	25.5	25.7	25.8	26.3	27.1	28.2	28.9	29.4	29.5	29.6
	全国	24.4	24.5	24.2	24.7	25.2	25.5	25.9	26.3	27.0	28.0	28.8	29.3	29.4	29.4

注：各年に結婚生活に入り届け出たものの集計である。

図 - 24 平均初婚年齢の年次推移（埼玉県・全国）



(8) 離婚

離婚件数は12,667組で、前年より183組増加した。

離婚率は人口千人に対し1.77で、前年より0.02ポイント上昇した。全国は前年より0.04ポイント上昇し1.81であった。(表 - 27)

離婚率の年次推移をみると、昭和58年以降低下傾向にあったが、平成元年以降上昇に転じた。その後、平成13年をピークに低下傾向にあったが、平成27年は平成21年以降6年ぶりに上昇した。(図 - 25)

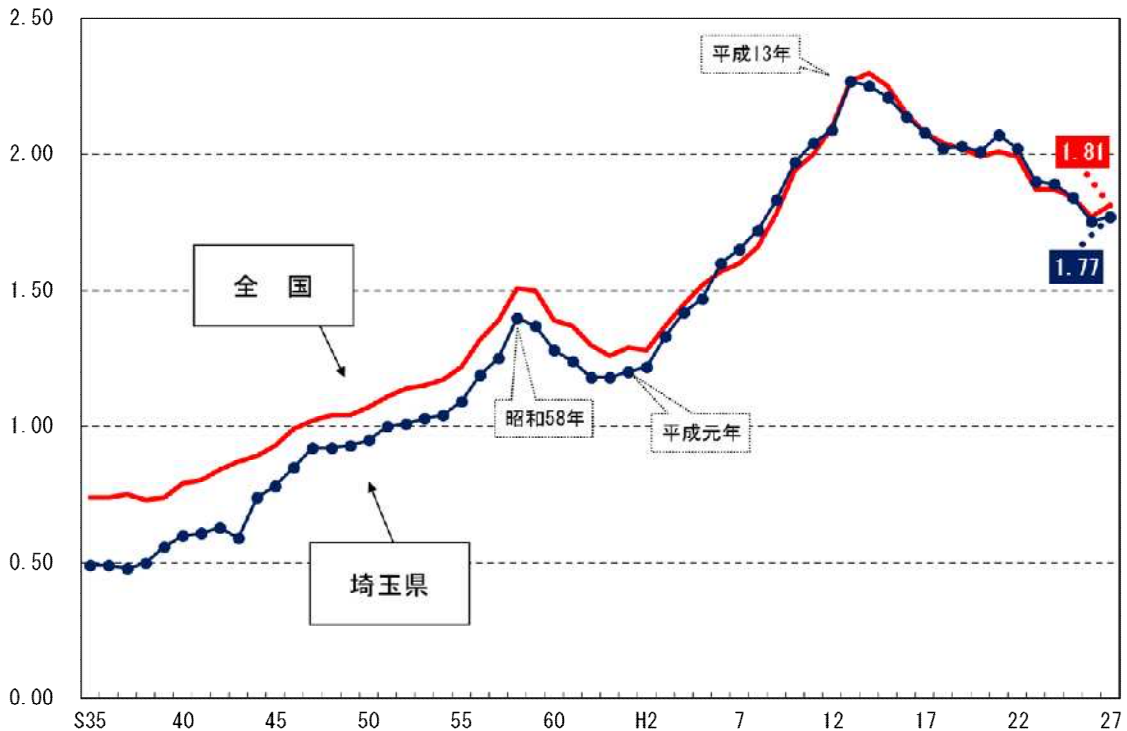
表 - 27 離婚件数及び離婚率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	1 182	1 797	2 990	4 584	5 901	7 494	7 775
	全 国	69 410	77 195	95 937	119 135	141 689	166 640	157 608
率	埼玉県	0.49	0.60	0.77	0.95	1.09	1.28	1.22
	全 国	0.74	0.79	0.93	1.07	1.22	1.39	1.28
		7	12	17	22	25	26	27
数	埼玉県	11 062	14 368	14 521	14 325	13 138	12 484	12 667
	全 国	199 016	264 246	261 917	251 378	231 383	222 107	226 215
率	埼玉県	1.65	2.09	2.08	2.02	1.84	1.75	1.77
	全 国	1.60	2.10	2.08	1.99	1.84	1.77	1.81

注：率は人口千対である。

図 - 25 離婚率の年次推移（埼玉県・全国）

離婚率(人口千対)



(9) 合計特殊出生率

合計特殊出生率は1.39で、前年の1.31より0.08ポイント上昇した。全国は前年より0.03ポイント上昇し1.45であった。

母の年齢階級別に前年と比較すると、19歳以下の階級を除いた全ての階級で上昇した。出生率は30～34歳が最も高く、次いで25～29歳、35～39歳の順となっている。（表-28、図-26）

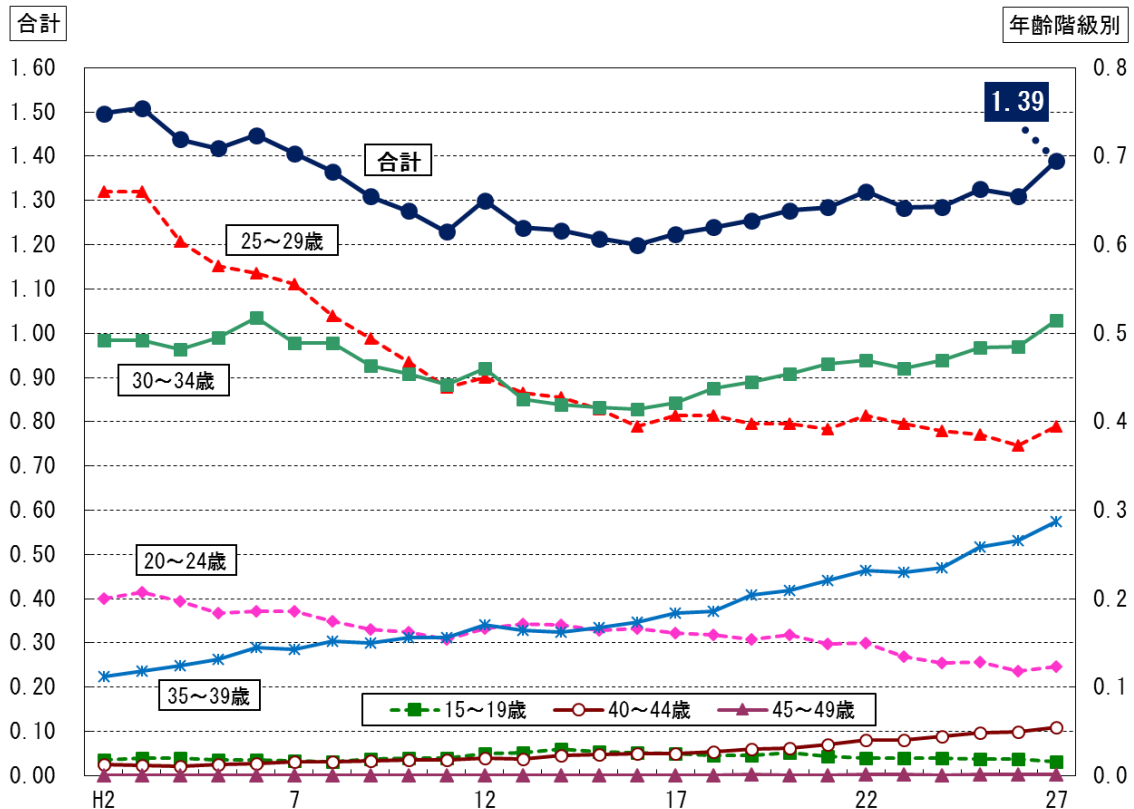
表-28 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）

		H2	7	12	17	22	23	24	25	26	27
埼玉県	合計	1.50	1.41	1.30	1.22	1.32	1.28	1.29	1.33	1.31	1.39
	15～19	0.02	0.02	0.02	0.0255	0.0200	0.0198	0.0196	0.0184	0.0190	0.0158
	20～24	0.20	0.19	0.17	0.1617	0.1504	0.1344	0.1273	0.1287	0.1186	0.1234
	25～29	0.66	0.56	0.45	0.4071	0.4075	0.3981	0.3893	0.3851	0.3729	0.3945
	30～34	0.49	0.49	0.46	0.4216	0.4693	0.4600	0.4693	0.4842	0.4848	0.5147
	35～39	0.11	0.14	0.17	0.1835	0.2322	0.2298	0.2350	0.2587	0.2659	0.2871
	40～44	0.01	0.02	0.02	0.0246	0.0404	0.0401	0.0440	0.0487	0.0491	0.0547
	45～49	0.00	0.00	0.00	0.0007	0.0010	0.0010	0.0007	0.0011	0.0013	0.0014
全 国	合計	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45

注1：数値は、各歳の年齢別出生率を合計したものである。ただし、埼玉県分のみ平成26年以前の数値は、5歳階級別の出生率で算出したものである。

注2：算出に用いた出生数の15歳及び49歳にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

図-26 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）（埼玉県）



市町村別にみると、高率順では、滑川町（1.82）、戸田市（1.71）、吉川市（1.62）の順である。

また、低率順では、東秩父村（0.73）、鳩山町（0.85）、吉見町（0.90）の順である。（表-29、図-27）

表-29 市町村別にみた合計特殊出生率（高率順）

埼玉県

順位	市町村	合計特殊出生率	順位	市町村	合計特殊出生率	順位	市町村	合計特殊出生率
1	滑川町	1.82	22	本庄市	1.42	43	狭山市	1.26
2	戸田市	1.71	23	深谷市	1.39	44	寄居町	1.25
3	吉川市	1.62	24	川越市	1.39	45	日高市	1.25
4	八潮市	1.61	25	越谷市	1.38	46	桶川市	1.25
5	朝霞市	1.56	26	宮代町	1.37	47	鴻巣市	1.24
6	伊奈町	1.55	27	白岡市	1.36	48	ときがわ町	1.22
7	秩父市	1.55	28	蕨市	1.35	49	神川町	1.22
8	富士見市	1.54	29	飯能市	1.33	50	久喜市	1.21
9	志木市	1.54	30	三芳町	1.33	51	加須市	1.18
10	ふじみ野市	1.53	31	嵐山町	1.33	52	幸手市	1.16
11	三郷市	1.50	32	上里町	1.32	53	北本市	1.14
12	川口市	1.50	33	春日部市	1.32	54	小川町	1.13
13	東松山市	1.46	34	行田市	1.32	55	川島町	1.08
14	草加市	1.45	35	入間市	1.32	56	松伏町	1.08
15	所沢市	1.45	36	坂戸市	1.32	57	杉戸町	1.07
16	新座市	1.43	37	横瀬町	1.31	58	小鹿野町	1.00
17	上尾市	1.43	38	羽生市	1.31	59	毛呂山町	0.98
18	美里町	1.43	39	鶴ヶ島市	1.30	60	越生町	0.93
19	熊谷市	1.43	40	皆野町	1.29	61	吉見町	0.90
20	和光市	1.42	41	蓮田市	1.28	62	鳩山町	0.85
21	さいたま市	1.42	42	長瀬町	1.27	63	東秩父村	0.73

注：順位の算出には、小数点第3位以下を考慮。

図一27 合計特殊出生率一市町村別状況一

全国 : 1.45
埼玉県 : 1.39

